

教育に関する事務の点検・評価報告書
(令和6年度事業)

令和7年11月

印西市教育委員会

目 次

1	点検評価について	1 頁
	(1) 趣旨	2 頁
	(2) 点検評価の対象	2 頁
	(3) 点検評価の方法	2 頁
	(4) 点検評価結果の構成	3 頁
2	印西市の教育施策	4 頁
	(1) 教育施策の基本理念	5 頁
	(2) 基本目標	6 頁
	(3) 教育施策の体系	9 頁
3	点検評価結果	10 頁
	(1) 点検評価結果目次	11 頁
4	評価のまとめ	37 頁
	(1) 評価内訳	38 頁
	(2) 基本目標別評価	41 頁
	(3) 学識経験者の知見の活用	42 頁

1 点検評価について

(1) 趣旨

市教育委員会では、平成19年6月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、毎年、教育行政事務の管理執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表しています。昨年度は、令和5年度の「印西市の教育施策」について「点検・評価」を実施し、各分野の学識経験者の皆様よりご意見をいただき、報告書を取りまとめ、公表しました。この「内部点検評価」の作業及びいただいたご意見を参考にすることで、令和6年度中に施策の進捗状況を再確認し、効果的な施策の展開に寄与することができたと考えております。

今年度も令和6年度の「印西市の教育施策」について「点検・評価」を実施し、報告書に取りまとめました。これを公表し、市民の皆様からご意見をいただき、よりよい教育の実現に向けて、取り組みを進めてまいりたいと考えております。

(2) 点検評価の対象

点検評価の対象は、令和6年度の「印西市の教育施策」（以下「教育施策」という。）における事業の実施内容とします。

(3) 点検評価の方法

点検評価の方法は、教育施策中の「事業」毎に、令和6年度に実施した実施内容及び実績を明らかにし、内部評価を客観的に行うものとします。

また、事業の評価をもとに今後の施策の方向性を検討することとします。

なお、法律に明記されている「学識経験を有する者の知見の活用」については、「印西市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価実施要綱」を定め、学校教育、生涯学習、それぞれの分野の学識経験を有する方を「印西市教育委員会点検評価委員」（以下「点検評価委員」という。）として委嘱しご意見をいただくこととします。

（点検評価の流れ）

○事業点検…「事業」毎の事業内容点検，今後の施策の方向性の検討
(点検者：担当課長)

↓

○施策評価…「事業」毎の評価，今後の施策の方向性の確認
(評価者：教育長，部長，点検評価委員)

↓

○総合評価…教育委員会会議における最終評価（評価者：教育委員）

(4) 点検評価結果の構成

教育施策中の「基本目標」毎の「主な取組」における「事業内容」を、令和6年度に実施すべき事業目標と位置付け、この実施状況について点検を行い、「事業」毎に内部評価しています。また、「主な取組」ごとに今後の施策の方向性を検討し、記載しています。

表の項目について

○事業……「主な取組」毎に掲げている事業です。

○事業内容（令和6年度目標）……事業の具体的内容です。教育施策は、当該年度の事業計画書であり、教育施策中の「主な取組」における「事業内容」は、実施すべき具体的事業内容であることから、令和6年度目標と位置付けています。

○令和6年度実績……令和6年度目標に対し、実際に実施した事業の内容、回数などを具体的に記載しています。

○事業評価……事業の進捗を点検し、印西市教育委員会が内部評価しました。評価指標は「S、A、B、C」の四段階評価とし、以下の内容を基準としています。

S 事業の目標が達成され、計画以上の施策の進捗が認められる。

A 事業の目標が概ね達成され、施策の進捗が認められる。

B 目標の一部が達成できなかった。

C 未達成事業が多く、施策の進捗がほとんど認められない。

○今後の施策の方向性……事業評価を踏まえた今後の施策の方向性を記載しています。

《参 考》地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

〔昭和31年6月30日法律第162号〕

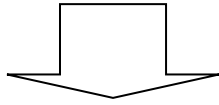
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 印西市の教育施策

印西市教育大綱



印西市教育振興基本計画

将来都市像

住みよさ実感都市
ずっと このまち いんざいで

教育施策

教育の基本理念【だれもが輝き ともにはばたく いんざいの学び】

- 基本方針1 学校・家庭・地域が連携強化し、未来を拓く子どもを育む教育の推進
基本方針2 市民が学びあい・活かしあい・地域に誇りと愛着が持てる学びの推進
基本方針3 すべての市民の健やかな心と体を育む学びの推進

基本目標・主な取組

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

- 1 子どもたちの学ぶ力を育む
- 2 子どもたちの豊かな心を育む
- 3 子どもたちの健やかな体を育む

II. 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる〔教育環境〕

- 1 教育環境整備の充実
- 2 学校の適正規模・適正配置の推進
- 3 情報化社会に対応した教育の推進
- 4 信頼される学校づくり

III. 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する〔文化・芸術〕

- 1 文化・芸術活動の推進
- 2 文化財の保護・活用の推進
- 3 市史編さん事業や地域史料の保存

IV. 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる〔生涯学習・青少年健全育成〕

- 1 多様な学習機会の提供
- 2 図書館サービスの充実
- 3 生涯学習施設の整備・充実
- 4 家庭と地域の教育力向上と青少年の健全育成

（基本目標Ⅰ）

知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち
未来を拓く子どもを育む 〔学校教育〕

変化の激しい社会を生き抜くために必要な生きる力の育成に向け、「学ぶ力・豊かな心・健やかな体」をバランスよく育むとともに、自らの能力を引き出し、習得したことを活用して、様々な課題に対し主体的に解決できる児童生徒を育成する必要がある。

「学ぶ力」の育成として学力の向上を中心にすえ、児童生徒の個性を伸ばす教育を推進し、言語能力や情報活用能力、英語教育や特別支援教育、幼児教育など現代的な諸課題に求められる資質・能力の育成に努める。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、職員研修の充実と指導方法の工夫改善を図る。

「豊かな心」の育成として道徳科を要とし、「考え、議論する道徳」への転換を図るとともに、音楽活動や芸能鑑賞、体験活動を通して豊かな情操を育む。また、児童生徒個々の心身の発達や特性に即した児童生徒理解と教育相談を充実させ、いじめや不登校などへのきめ細かな支援と組織的な対応に努める。

「健やかな体」の育成として体育授業の充実や部活動支援により、児童生徒の体力の向上を図る。また、健康診断や保健指導を実施し、学校環境衛生の改善に努めるとともに、食に関する指導を推進し、安全安心で栄養バランスのとれた給食を提供する。

（基本目標Ⅱ）

子どもたちが安全で安心できる生活を送り、健やかに
成長できるよう、教育環境を充実させる 〔教育環境〕

小中学校の施設等については、校舎などの老朽化が進行している状況にあり、施設の改修や、学級増に伴う教室等の増築・学校給食センターの安定稼働など、学校の施設や設備の計画的な修繕、改修が必要となっている。

また、教育格差を生じさせないための就学支援や学校の適切な配置、情報活用能力を高める教育としてのＩＣＴ環境の整備、安全で安心に過ごせる信頼される学校づくりなども対応が求められている。

このことから、子どもたちが安全で安心できる学校生活を送り、健やかな成長を支えるための教育環境づくりとして、学校施設や学校給食センターの整備及び就学援助の実施、学校の適正規模・適正配置や安全教育の充実、地域と連携した開かれた学校づくりや情報化社会に対応した教育の推進などを図っていく。

（基本目標Ⅲ）

市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する

〔文化・芸術〕

文化・芸術活動については、市民の感性を高め、本市に住むことに誇りと愛着を持てるように文化・芸術活動を推進することが求められている。

また、文化財の保護・活用については、本市に残る有数の貴重な文化財等を耕世に伝えるため、調査研究を行うとともに公開・活用を継続し、生涯学習や他の事業とも連携し後世に伝えていくことが課題となっている。

併せて市民が市の歴史に理解を深め、誇りと愛着を持てるように、市史資料の公開・活用を図っていくことも課題である。

このことから、市民の豊かな心や地域に対する関心の醸成を図るため、自主的な文化・芸術活動を積極的に支援する。また、市民が様々な文化や芸術に触れることができる取組を進める。

さらに本市の歴史や文化財は、先人の残した文化遺産であり、その価値や意義を踏まえ次世代に適切に継承していくため、市民の郷土意識の涵養を図り、本市に残る各種の有形・無形文化財、埋蔵文化財、地域史料の保護や保存及び活用を進めていく。

（基本目標Ⅳ）

市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる 〔生涯学習・青少年健全育成〕

生きがいを持ち、充実した生活を送れるよう、生涯にわたって学習できることは重要である。さらに、少子高齢化やライフスタイルの多様化により、生涯学習に対する市民のニーズも変化している中、学習メニューの充実や開講日時の工夫により

幅広い年齢層の参加促進を図るとともに、効果的な学習サービスの提供体制を構築することが課題となっている。

子どもから高齢者まで市民一人ひとりが自ら学び、生きがいや自己実現などにつながる生涯を通して学習ができる環境づくりを進める。

また、生涯学習活動を通じて、地域への愛着を生み、地域づくりのための社会参加を促すとともに学習成果を地域に還元できるような支援を行う。あわせて活動の場としての生涯学習施設の整備を推進する。

さらに、子どもたちの豊かな人間性や社会性を育み、子どもたちが安全で安心して健やかに成長できるよう、学校・家庭・地域の連携を図り、青少年の健全な育成に向けた活動を推進していく。

印西市の教育施策の体系

基本理念

基本方針

基本目標

主な取組

主な事業における重点的な取組

だれもが輝き ともに歩む 未来の学び

1. 学校・家庭・地域が連携強化し、未来を拓く子どもを育む教育の推進

2. 市民が学びあい・活かしあい、地域に誇りと愛着が持てる学びの推進

3. すべての市民の健やかな心と体を育む学びの推進

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む
〔学校教育〕

II. 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる
〔教育環境〕

III. 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する
〔文化・芸術〕

IV. 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる
〔生涯学習・青少年健全育成〕

1 子どもたちの学ぶ力を育む

2 子どもたちの豊かな心を育む

3 子どもたちの健やかな体を育む

1 教育環境整備の充実

2 学校の適正規模・適正配置の推進

3 情報化社会に対応した教育の推進

4 信頼される学校づくり

1 文化・芸術活動の推進

2 文化財の保護・活用の推進

3 市史編さん事業や地域史料の保存

1 多様な学習機会の提供

2 図書館サービスの充実

3 生涯学習施設の整備・充実

4 家庭と地域の教育力向上と青少年の健全育成

・個性や能力を伸ばす教育の推進
・指導法等の研修の充実
・国際理解教育の推進

・道徳教育の充実
・人権教育の推進
・適応指導教室事業の推進

・学校体育の充実
・学校環境衛生の充実と感染症対策の徹底

・安全な学校・幼稚園施設等の充実

・情報教育の推進

・学校情報公開と地域の連携

・文化・芸術活動の支援

・指定文化財保護事業
・文化財の活用事業
・郷土資料の収集・保存・展示

・市史編さん事業

・市民アカデミーの充実
・社会教育関係団体の支援

・図書館サービスの充実

・生涯学習環境の整備・充実

・家庭教育学級の充実

3 点検評価結果

点検評価結果 目次

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

- | | |
|------------------|--------|
| 1 子どもたちの学ぶ力を育む | 12～16頁 |
| 2 子どもたちの豊かな心を育む | 17～18頁 |
| 3 子どもたちの健やかな体を育む | 19～21頁 |

II. 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる〔教育環境〕

- | | |
|-------------------|--------|
| 1 教育環境整備の充実 | 22頁 |
| 2 学校の適正規模・適正配置の推進 | 23頁 |
| 3 情報化社会に対応した教育の推進 | 23～24頁 |
| 4 信頼される学校づくり | 24～26頁 |

III. 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する〔文化・芸術〕

- | | |
|-------------------|--------|
| 1 文化・芸術活動の推進 | 27頁 |
| 2 文化財の保護・活用の推進 | 28～29頁 |
| 3 市史編さん事業や地域史料の保存 | 30頁 |

IV. 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる〔生涯学習・青少年健全育成〕

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1 多様な学習機会の提供 | 31～32頁 |
| 2 図書館サービスの充実 | 32～33頁 |
| 3 生涯学習施設の整備・充実 | 33頁 |
| 4 家庭と地域の教育力向上と青少年健全育成 | 34頁 |

◇ 参考

- | | |
|---------------------------------|--------|
| 第2期教育振興基本計画（R4～R7）の成果指標に対する達成状況 | 35～36頁 |
|---------------------------------|--------|

点検評価調書

I 知・徳・体の調和の取れた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

1 子どもたちの学び力を育む

(★は、重点的な取組) 指導課・学務課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
1 個性や能力を伸ばす教育の推進★	<ul style="list-style-type: none"> ○学級経営相談支援の実施 ○漢字級別認定テスト「印西漢字マスター」の実施 ○社会科ワークテストの作成及び活用 ○生徒指導の機能を重視した「わかる授業」展開の推進 ○基礎学力向上のための取組の推進 ○個に応じた指導方法の工夫・改善及び指導体制の充実 ○ICTを活用した授業づくりの推進と支援 ○学校支援ボランティア・学生ボランティアの活用 (順天堂大学、秀明大学、日本医科大学看護専門学校等との連携) ○教職インターンシップ「あすなろ先生」の派遣 (秀明大学との連携) ○デジタル教材の効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○要請のあった学校に計7回訪問し、対象者に基本的な授業技術や学級経営について指導助言した。 ○小中学校にて3回実施し、のべ12,861名の児童生徒が受検した。 ○社会科副読本「わたしたちの印西市（小学3・4年生版）」に準拠したワークテストの活用を推奨した。 ○要請に応じて学校へ148回訪問し、授業研修会等で助言・支援した。 ○小中学校でドリルタイム設定やICTの活用を通して、計算・漢字等の基礎学力の向上を図った。 ○各種研修会において教職員の資質向上を図るとともに、学習指導員等の配置やボランティアの活用を行った。 ○1人1台端末の活用に向けて、校内研修会および少人数研修会を105回を実施し、ICT活用推進に努めた。 ○小中学校にて合計731名のボランティアの協力を得て、学習支援の充実と環境整備等の推進を図った。 ○6月から1月までの週1回、19名の学生を6小学校及び5中学校に派遣し、学生の教職インターンシップを支援した。 ○1人1台端末を利用し、指導者用・学習者用デジタル教科書や、web上の素材を授業で効果的に利用できるよう支援した。
事業評価★	S	
2 教職員研修（主任・層別等）の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○教務主任研修会の開催 ○情報教育研修会の開催 ○国際理解教育担当者研修会の開催 ○学校図書館担当者研修会の開催 ○体育主任研修会の開催 ○安全主任研修会の開催 ○養護教諭研修会の開催 ○特別支援教育コーディネーター研修会の開催 ○教育相談研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校の教務主任を対象に、研修会を3回実施した。 ○小中学校の情報教育主任を対象に、オンライン形式で研修会を2回実施し、情報教育の推進と機器の操作方法について周知を図った。 ○小中学校の国際理解教育担当者を対象に、研修会を2回実施し、小中連携の計画・協議や外国語指導法の研修を行った。 ○小中学校の学校図書館担当者を対象に、図書システム研修会を2回実施した。 ○小学校体育科主任研修会を3回、中学校保健体育科主任研修会を1回実施した。 ○小中学校の安全主任を対象に、研修会を1回実施し安全主任の役割や通学路の点検について確認した。 ○小中学校の養護教諭を対象に、研修会を3回実施した。 ○小中学校の特別支援教育担当者を対象に、研修会を1回実施した。 ○小中学校の希望する教職員を対象に、研修会を3回実施した。

点検評価調書

I 知・徳・体の調和の取れた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

1 子どもたちの学び力を育む

(★は、重点的な取組) 指導課・学務課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
	<ul style="list-style-type: none"> ○講師対象研修会の開催 ○非常勤職員研修会の開催 ○ICT活用に関する研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○臨時的任用講師を対象に、研修会を4回実施した。 ○非常勤講師を対象とした研修会を5回実施した。 ○情報教育担当や希望する教職員を対象としたweb上の情報共有スペースを作成し、日常的にICT活用に関する情報の共有を行った。250名を超える教職員が登録し活用した。
事業評価	S	
3 指導法等の研修の充実★	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導法等に関する研修会の開催 ○教科教材研究等に関する研修会の開催 ○道徳教育授業研修会の開催 ○実技研修会の開催 ○ICT実技研修会及びICT活用研修会の開催 ○特別支援教育研修会の開催 ○授業相談支援の実施 ○各種出前授業の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校の希望する教職員を対象に、研修会を9回実施した。 ○小中学校の希望する教職員を対象に、研修会を4回実施した。 ○小中学校の道徳教育担当者を対象に、校内での授業研究を含め、研修会を3回実施した。 ○そうふけふれあいの里改修工事に伴い未実施。 ○夏季研修会にてICTにかかわる研修を4回実施した。 ○小中学校の特別支援教育担当者を対象に、研修会を1回実施した。 ○小中学校の要請に応じて、指導主事等が、授業づくり・学級経営・校内研究、及び研究発表等に関して小中学校を訪問し、指導・助言を127回行った。 ○小中学校の要請に応じて、児童生徒・保護者を対象に、指導主事等によるSNSネットリテラシー出前授業を10回実施した。
事業評価★	S	
4 校内研修の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研修での指導・助言 ○ICT活用研修の支援 ○教科指導法の指導・支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校に指導主事等を派遣し、指導・助言を130回行った。 ○ICT活用は手立ての一つとして児童生徒の学びに浸透しており、それぞれの校内研修においてICT活用方法について指導・助言を行った。 ○小中学校の要請に応じて、指導主事等が教科指導に関する指導・助言を行った。
事業評価	S	
5 教育課題調査・研究・開発	<ul style="list-style-type: none"> ○学力調査と活用 ○教育に関する調査・研究・開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒個人の経年変化が見られる学力調査を実施し、教科学力と学習意識の向上を図った。 ○全国学力・学習状況調査の結果について調査し、考察を加えた冊子を作成し、各校に指導法改善の周知を図った。

点検評価調書

I 知・徳・体の調和の取れた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

1 子どもたちの学び力を育む

(★は、重点的な取組) 指導課・学務課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
	<ul style="list-style-type: none"> ○研究校等、特色ある教育活動への支援 ○教材の研究開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語教育、情報教育、環境教育、食育指導、心のバリアフリー教育、学校体育研究などの特色ある教育活動を行う15小学校及び7中学校への支援を行った。 ○教育センターで作成した社会科ワークテストや漢字・計算力検定、SNS等対応ネットリテラシー教材等を周知し、活用を図った。
事業評価	S	
6 教育研究団体支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員による自主講座の開催 ○本市教育研究会への指導・助言 ○各研究団体の活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○要請に応じて、研修会に指導主事等を派遣し、指導・助言を行った。 ○要請に応じて、授業研修会に指導主事等を7校へ派遣し、指導・助言を行った。 ○要請に応じて、指導主事等を派遣し、活動支援を行った。
事業評価	A	
7 幼児教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育に関する様々な情報の提供 ○組織的・計画的な園内研修の推進 ○職場見学や体験を通しての交流 ○子ども発達センターや子ども家庭課等との連携 ○指導補助や支援のための非常勤職員の配置 ○相談支援ファイルを活用した早期就学相談の実施 ○幼保小の架け橋プログラムの実施に向けた連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者会や園だより等を通じ、園児の様子や幼児教育に係る情報を積極的に提供した。 ○年間計画に基づき、非常勤職員等も含めた園内研修を実施した。 ○小学校の職場見学学習を実施した。中学校の職場体験学習を実施した。 ○関係課の職員との情報共有や、全小中学校の児童生徒の指導・支援に関して情報共有を図った。 ○幼稚園に補助教員7名、支援員2名を配置した。 ○コスモスファイルを活用し、年間を通じた個別の就学相談を実施した。 ○小学校の学校訪問や年3回の会議等で情報の共有を図った。
事業評価	S	
8 読書活動推進のための学校図書館の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館システムの活用による学校間貸出の推進 ○計画的な図書資料の選定と購入、廃棄 ○蔵書点検の実施 ○学校司書の適切な配置 ○学校司書連絡会の定期的な開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○図書システムを活用し、4つの小中学校間で21冊の貸し出しを行った。 ○文部科学省が示す学校図書館図書標準に基づき、児童生徒への指導に適した蔵書の選定及び購入を行った。 ○中学校9校において蔵書点検を実施した。 ○全小中学校に学校司書12名配置した。 ○学校等を会場とし、学校司書を対象とした連絡会を年6回実施した。
事業評価	A	

点検評価調書

I 知・徳・体の調和の取れた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

1 子どもたちの学び力を育む

(★は、重点的な取組) 指導課・学務課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
9 市立図書館との連携事業の開催	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館担当者会議、学校司書連絡会での情報交換 ○市立図書館からの団体貸し出しの利用促進 ○スクール便貸出事業 ○図書館司書研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館担当者会議や学校司書連絡会に市立図書館司書も出席し、情報交換を3回行った。 ○小中学校の要望に応じて、市立図書館から学校へ12件の団体貸し出しを利用した。 ○市立図書館からスクール便として、小学校17校に3回ずつ書籍のセット貸し出しを利用し、読書活動推進を図った。 ○学校司書を対象とした連絡会を6回実施した。
事業評価	A	
10 国際理解教育（外国語教育）の推進★	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語指導助手（ALT）及び日本人英語教育コーディネーターの活用 ○日本語指導員の派遣 ○小学校中学年の外国語活動及び高学年の外国語科の充実 ○小学校低学年における国際理解教育の推進 ○イングリッシュアカデミーホップ（小学3・4年生対象の英語研修会）の実施 ○イングリッシュアカデミーステップ（小学5・6年生対象の英語研修会）の実施 ○イングリッシュアカデミージャンプ（中学生対象の海外派遣研修）の実施 ○英語コミュニケーション能力検定テスト「印西英語マスター」の実施 ○小中学校で連携した外国語教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○全幼小中学校に13名のALTを、全小学校に11名の英語教育コーディネーターを配置し、コミュニケーション能力の育成に向けた実践力の向上を図った。 ○11名の日本語指導員を17校に配置し、外国人児童生徒や帰国児童生徒の円滑な学校生活や学習活動のための支援を行った。 ○全小学校において、3・4年生は年間35時間の外国語活動を、5・6年生は年間70時間の外国語科の授業を実施した。 ○各小学校において、外国語活動や休み時間等でALTと触れ合う機会を多く設けた。 ○ALTを活用し、夏季休業中に小学校3・4年生を対象とした半日の研修を2回実施した。136名の児童が参加した。 ○ALTを活用し、夏季休業中に小学校5・6年生を対象とした半日の研修を2回実施した。85名の児童が参加した。 ○市内中学校に研修生を募集し、180名の応募があった。この内、20名をオーストラリアメルボルンへ派遣した。海外派遣の前後に、3回の事前研修と1回の事後研修を実施した。 ○市内18小学校で2回ずつ実施し、1,296名が受検した。 ○国際理解教育担当者研修会にて各中学校区毎に、実態に合わせた様々な取組を協議・計画をし、実施した。また年度末には、次年度に向けての取組を検討した。
事業評価★	S	
11 特別支援教育及び支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の指導計画・個別的教育支援計画の作成と活用 ○学習指導員及び介助員の配置 ○校内支援体制の充実 ○定期的巡回相談の実施 ○専門家チームの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校において個別の指導計画・個別的教育支援計画を作成し、具体的な指導・支援に活用した。 ○小・中学校において学習指導員64名、支援員47名を配置した。 ○児童生徒の教育的ニーズに応じて、特別支援学級・通常学級間の交流学習を行うとともに、校内では組織的対応を図った。 ○関係課の職員と連携し、小中学校への巡回訪問を2回ずつ行い、児童生徒の指導・支援に関して情報共有を図った。 ○専門家チーム会議を3回実施し、事例があがった際の参観や検討の仕方についての話し合いを行った。

点検評価調書

I 知・徳・体の調和の取れた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

1 子どもたちの学び力を育む

(★は、重点的な取組) 指導課・学務課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
	○家庭、医療、関係機関等との連携 ○適応指導教室との連携 ○特別支援教育に関する研修会の開催 ○コスモスファイルを活用した児童生徒理解 ○インクルーシブ教育の推進 ○医療的ケア看護職員の配置	○児童生徒個々の教育的ニーズに合わせて対応できるよう、必要に応じて国際医療福祉大学成田病院等と指導・支援の方法に関する情報共有及び連絡調整を図った。 ○児童生徒個々の教育的ニーズに合わせて対応できるよう、必要に応じて指導・支援の方法に関する情報共有及び連絡調整を図った。 ○小中学校の特別支援教育担当者を対象とした研修会を1回と、学習指導員及び介助員等を対象とした研修会を2回実施した。 ○就学相談ではコスモスファイルの持参を依頼し、他機関での相談や幼稚園からの情報記録も活用しながら相談を行った。 ○小中学校の要請訪問で、合理的配慮やユニバーサルデザインにおける基礎的な知識などの理論研修を行った。 ○医療的ケアを必要とする市内5名の児童に対し、看護職員を配置して医療的ケアを行った。
事業評価	S	
12 教育支援の推進	○教育支援委員会の開催 ○早期就学相談の実施 ○関係課担当者会議の実施	○11名の委員により、教育支援委員会を4回実施した。 ○5月に就学相談会を2回実施した。また、年間を通して個別の就学相談を実施した。 ○4課担当者会議を7回実施した。また、ネットワーク部会を2回実施した。
事業評価	S	
13 キャリア教育の推進	○中学校職場体験学習（印西市生き活き体験）の実施 ○地域の企業、職業人との連携 ○キャリア・パスポートへの支援	○中学校9校が市内194事業所の協力のもと、職場体験学習を実施した。 ○小中学校で民間事業所の方や職業人を講師に招き、講話会等を実施した。 ○小中学校の児童生徒一人ひとりにキャリアパスポートを配付し、キャリア教育の推進を図った。
事業評価	A	

今後の施策の方向性	<p>様々な感染症が年間をととして流行していることや、熱中症アラートの発令された日が増えているため、児童生徒の安全安心を第一に考慮し、実施方法を工夫しながら取り組んだ。児童生徒の学び力を育むことができているので、事業を継続し、更に施策の推進を図る。</p> <p>会議や研修会、連絡会については、オンラインでの開催も含め、より効果的・効率的な開催方法を工夫していく。</p> <p>教科等の指導における1人1台端末の活用について、有効的に活用できるよう、教職員の技能や意識を向上するための支援の充実を継続して取り組んでいきたい。</p> <p>国際理解教育の充実に向けて、印西市英語教育ビジョンにそって、ALTや日本人の英語教育コーディネーターの配置拡充による授業支援、市独自の英語コミュニケーション能力検定テストの実施、外国語教育における小中連携を推進していく。</p>
-----------	--

点検評価調書

I 知・徳・体の調和の取れた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

2 子どもたちの豊かな心を育む

(★は、重点的な取組) 指導課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
1 道徳教育の充実★	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育全体計画の改善と校内推進体制の充実 ○道徳教育授業実践研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校の道徳教育推進教師を中心に計画の見直しや指導の実践を図った。 ○小中学校から推薦された教職員を対象に、研修会を3回実施した。
事業評価★	S	
2 人権教育の推進★	<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育全体計画の改善と心を育てる教育の充実 ○人権教育研修の実施 ○人権教室の開催 ○いじめに関するアンケートの定期的な実施 ○いじめ問題対策連絡協議会等の開催 ○家庭・地域や関係機関との連携による人権意識の啓発 ○多様性を尊重する人権教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○国や県の動向を踏まえた各校の取組について指導・助言を行った。 ○要請のあった小中学校で、指導主事等による人権教育に関する校内研修を実施した。 ○小中学校で道徳や学年集会の時間を使い、人権教育の推進を図った。 ○小中学校で定期的なアンケート及び教育相談を実施し、いじめの未然防止、早期発見、事態解決を図った。 ○いじめ防止対策会議を毎月1回以上実施し、いじめの実態把握や未然防止、早期発見等の対応について共通理解を図った。また、いじめ問題対策連絡協議会を1回開催し、関係者間の連携・情報共有を図った。 ○学校からの便り及び学校ホームページ等を通じて、学校の取組について情報発信した。 ○LGBTQの方への配慮や理解を深めるための教育活動について、要請訪問の際に指導助言を行った。
事業評価★	A	
3 文化・芸術体験事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○さわやかハートフルコンサートの開催 ○小学校芸術鑑賞教室の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校5年生音楽系部活動、及び中学校代表生徒を対象に、日頃の合唱や演奏練習の成果を発表し合う場としてコンサートを開催した。 ○小学校6年生を対象に、公演を4回開催した。
事業評価	S	
4 体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○奉仕等体験活動の実施 ○自然科学体験学習の実施 ○みどりの少年団活動の推進 ○親子体験学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校で年間計画に基づき、学校や地域の美化活動を実施した。 ○児童生徒を対象に、オンライン形式の科学実験講座を実施し、38名が参加した。 ○小中学校で緑化活動に取り組んだ。 ○そうふけふれあいの里改修工事に伴い、休止した。
事業評価	B	

点検評価調書

I 知・徳・体の調和の取れた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

2 子どもたちの豊かな心を育む

(★は、重点的な取組) 指導課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
5 郷土愛を育む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○地域学「ふるさと印西学」の実施 ○各小中学校に設置している「歴史資料室」の内容の充実 ○地域資源・地域人材の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域学「ふるさと印西学」の教材を開発し、学習を全校で実施した。 ○各学校において掲示物及び展示物等の見直しや更新を行い、内容の充実に努めた。 ○各学校において地域資源・地域人材の活用に努めた。
事業評価	A	
6 適応指導教室事業の推進★	<ul style="list-style-type: none"> ○適応指導教室の充実 ○適応指導教室連絡会の実施 ○校内適応指導教室の開設 	<ul style="list-style-type: none"> ○「緑のまきば」「森のステーション」2つの適応指導教室を運営し、小学生5名、中学生22名が在籍した。 ○より丁寧な個別指導の観点から、適応指導教室連絡会議を毎月実施した。 ○8中学校において、校内適応指導教室を開設した。
事業評価★	S	
7 教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○面接相談・電話相談の充実 ○不登校児童生徒等の相談の充実 ○関係機関との連携 ○訪問指導の充実 ○スクールカウンセラー等の活用 ○学校の諸問題に対する助言・指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○面談を90件、電話相談を50件実施した。このうち、子ども相談室の利用は21件であった。 ○必要に応じてケース会議を実施し、訪問相談担当教員やスクールソーシャルワーカー等との連携を図った。 ○学校だけではなく、市の子育て支援担当課や医療機関との連携を図った。 ○訪問相談担当教員やスクールソーシャルワーカーを活用し、相談の充実を図った。 ○小中学校に配置されたスクールカウンセラーが、児童生徒及び保護者の相談に関わった。 ○スクールアドバイザー2名が、学校の諸問題に対して、広い視野から総合的見地に立って指導・助言を82回行った。
事業評価	S	

今後の施策の方向性	<p>様々な感染症の流行や熱中症対策のため、集合型・体験型の事業を一部中止することもあったが、実施方法を工夫しながら実施し児童生徒の豊かな心を育むことができていたので、事業を継続し、更に施策の推進を図る。</p> <p>適応指導教室事業については、学びに向かう場の一つとして、8中学校で適応指導教室を開設し生徒に寄り添った対応に努めてきた。今後も、実施方法を学校や児童生徒の実態をふまえて工夫し、より効果的・効率的な実施を検討していく。児童生徒への心の教育の充実を図るとともに、いじめや不登校への対策、悩みを抱える児童生徒への支援のため、関係・専門機関との適時かつ継続的な連携を今後も図っていく必要がある。</p>
-----------	---

点検評価調書

I 知・徳・体の調和の取れた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

3 子どもたちの健やかな体を育む

(★は、重点的な取組) 指導課・学校給食課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
1 学校体育の充実★	<ul style="list-style-type: none"> ○体育主任会議の開催 ○小学校駅伝競走大会の開催 ○中学校武道学習における外部指導者の活用 ○授業や大会等における順天堂大学との連携強化 ○運動に親しむ能力を育成するための授業改善指導 ○体力・運動能力調査の集計・分析 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校体育主任対象の会議を3回、中学校体育主任対象の会議を1回、計4回実施した。 ○全小学校が参加し、通常どおりの大会を開催した。 ○県の特別非常勤講師配置事業により、1中学校に外部人材を1名配置し、活用した。 ○小学校駅伝競走大会にて、伴走等で協力を得て実施した。また、オリパラスポーツ教室で小中学校15校への協力を得た。 ○各校からの要請に基づき、指導主事を派遣し、体育科（保健体育科）学習の授業改善を図った。 ○とりまとめた集計結果を各学校に周知し、各学校での体育科（保健体育科）学習や体力向上の取組に生かした。
事業評価★	A	
2 運動部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動サポート事業による指導者派遣 ○部活動補助金交付事業による経済的支援 ○部活動の適切な運営に向けた指導・助言 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動サポーター23名を派遣し、技能及び競技力の向上を図った。 ○各種大会及び関東大会・全国大会参加者のべ14人の交通費等の経費について支援を行った。 ○活動方針や活動報告、日々の活動の様子を確認し、安全で適切な部活動運営ができるように助言を行った。
事業評価	A	
3 健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○保健指導教材の整備 ○薬物乱用防止教育の推進 ○養護教諭、小児科医による「いのちの授業」の実施（中学生対象） ○養護教諭、助産師、保健師等による性に関する指導の実施（小学6年生、中学3年生対象） ○学校医、学校歯科医、学校薬剤師との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○沐浴人形等の貸し出しを2校に行った。 ○薬物乱用防止教室を中学校で実施するとともに、薬物の依存性や怖さについて学習する保健領域の授業を行った。 ○「いのちの授業」を中学校3校で実施した。 ○小中学校に助産師を派遣し、思春期の体や心、いのちの安全教育について授業を行った。 ○学校保健会理事会を画面開催した。
事業評価	A	
4 学校保健会の活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○各部会（小児生活習慣病予防、歯科保健、アレルギー対策、感染症対策等）及び研修会（学校薬剤師、養護教諭、栄養教諭等）の活動の支援 ○「印西市の学校保健」（小冊子）と学校保健会報の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ○小児生活習慣病予防検討部会を1回、歯科保健検討部会を1回開催した。 ○アレルギー対策検討部会を1回、学校薬剤師部会を2回、栄養士部会を3回、養護教諭部会を3回実施した。 ○「印西市の学校保健」を1回、学校保健会報を1回発行した。
事業評価	A	

点検評価調書

I 知・徳・体の調和の取れた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

3 子どもたちの健やかな体を育む

(★は、重点的な取組) 指導課・学校給食課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
5 健康診断の実施と事後措置の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○就学前児・児童・生徒の健康診断の実施 ○健康診断結果の集計と分析 ○個別指導の充実（治療勧告） 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒への定期健康診断（内科・歯科・耳鼻科・眼科・尿検査・結核等）及び就学時健康診断を実施した。 ○健康診断結果を「印西市の学校保健」にまとめた。 ○健康診断結果に基づき保護者に治療勧告を行うとともに、個別指導を実施した。
事業評価	S	
6 小児生活習慣病の予防	<ul style="list-style-type: none"> ○学校医、養護教諭、栄養教諭等による小児生活習慣病予防検討部会の開催 ○小児生活習慣病予防検診の実施（小学5年生、中学1・3年生対象） ○養護教諭、栄養教諭等による小児生活習慣病予防教室及び事後指導・個別相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○小児生活習慣病予防検討部会を1回開催した。 ○小学5年生、中学1・3年生を対象に、小児生活習慣病予防検診を実施した。 ○養護教諭、栄養教諭等による小児生活習慣病予防教室及び事後指導・個別相談を小中学校で実施した。
事業評価	A	
7 口腔衛生事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校歯科医、養護教諭、歯科衛生士等による学校歯科保健検討部会の開催 ○学校歯科医、歯科衛生士等による歯科相談・ブラッシング指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校歯科保健検討部会を1回開催した。 ○学校歯科医、歯科衛生士等による、ブラッシング指導と講義を17小学校・8中学校で実施した。
事業評価	A	
8 保健室機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○保健室の整備 ○健康相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策のため、消毒液等の衛生物品の配付を随時行った。 ○養護教諭の資質向上と児童生徒の健康課題解決を目指して、養護教諭部会の中に健康相談班を設け、研鑽を積んだ。
事業評価	S	
9 学校環境衛生の充実と感染症対策の徹底★	<ul style="list-style-type: none"> ○環境衛生検査（水質検査、照度検査、空気検査等）の実施 ○学校医・学校薬剤師等との連携による衛生管理体制の整備 ○環境衛生を良好に保つための適切な消毒や清掃の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○照度・照明検査、飲料水水質検査、空気環境調査（ホルムアルデヒド・二酸化炭素・二酸化窒素）、ダニアレルゲン検査、配膳室衛生検査を小中学校で実施した。 ○必要時、学校医・学校薬剤師等に相談し、小中学校の衛生管理に努めた。 ○感染症拡大防止対策のため、小中学校で適切な消毒や清掃を行った。
事業評価★	S	

点検評価調書

I 知・徳・体の調和の取れた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

3 子どもたちの健やかな体を育む

(★は、重点的な取組) 指導課・学校給食課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
10 食に関する指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○「印西市食育ミニマム」や食に関する指導の全体計画に基づいた組織的な指導 ○栄養教諭、養護教諭、学級担任等の連携による食育指導 ○栄養教室（全小学校1・3年生） <ul style="list-style-type: none"> ・食育の授業の開催（希望による小学校2・4・6年生に実施） ○小児生活習慣病予防教室の開催（小学校5年生・中学校1年生対象） ○家庭・地域と連携した食育の推進 ○ちば食育ボランティア、ちば食育サポート企業の活用 ○給食レストランの開催（市民対象） 	<ul style="list-style-type: none"> ○「印西市食育ミニマム」の職員への周知を行い、組織的な指導の推進に努めた。 ○各種授業や給食指導等で、学級担任等と連携を図りながら実施した。 ○栄養教室は、小学校1年生「給食についてしよう」小学校3年生「野菜パワーのひみつをしよう」を全校実施した。食育の授業は、小学校2年生「元気になる食べ方をしよう」を16校で、小学校4年生「元気がでる朝ごはんを考えよう」を16校で、小学校6年生「栄養を考えた朝食にしよう」または「1食分の献立を考えよう」を17校で実施した。 ○養護教諭、栄養教諭等によるティームティーチングで、小学校5年生「生活習慣病を予防しよう」中学校1年生「バランスの良い朝食を食べて生活習慣病を予防しよう」を実施した。 ○食育つうしんを年12号発行し、家庭への啓発を行った。各種授業後、指導内容がわかる保護者資料を配付するとともに家庭と連携した事後活動を実施した。また、18校で行った家庭教育学級では講話や試食を実施した。 ○ちば食育ボランティア、ちば食育サポート企業活用の推進に努めた。 ○物価の高騰や食数の増などにより実施を見送った。
事業評価	A	
11 学校給食の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○献立の工夫と改善 ○衛生管理の徹底 ○給食残渣等の再資源化 ○食物アレルギーへの対策及び食物アレルギー対応給食の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○印西産の食材を39.0%、千葉県産を27.9%使用し、地場産物の活用を推進した。また、行事食や郷土料理、世界の料理を献立に取り入れた。また、ICTを活用した嗜好調査等を実施し、献立の改善に活かした。 ○衛生管理研修会等へ参加した。また、食品細菌検査を実施し、衛生管理の改善に活かした。 ○給食残渣の再資源化（堆肥化）を業者委託により実施し、実績として151,968kgを再資源化した。 ○食物アレルギー保健調査票を基に使用食品一覧表、加工食品分析表を保護者に配付し、事故防止に努めた。また、特別調理室のある中央学校給食センターでは、対応給食（卵・乳の除去食）の提供を実施した。
事業評価	A	

今後の施策の方向性	<p>学校体育、学校保健においては、感染症予防対策や熱中症予防のため集合型・体験型の事業を中止することもあったが、多くの事業については、人数や時間を調整しながら健康面に配慮して実施した。</p> <p>児童生徒の健やかな体を育むことができているので、事業を継続し、更に施策の推進を図る。</p> <p>全国的に児童生徒の体力・運動能力の低下が指摘されており、本市においても改善に向けた努力が必要である。今後は、効率よく運動量を確保してねらいに到達できるよう、関係課や関係機関との連携を図り、児童生徒の体と心の健康を保持していきたい。</p> <p>食に関する指導の推進については、学校と連携をとりながら、全体計画に基づく組織的な指導で更なる充実を図りたい。</p> <p>学校給食については、児童生徒数の増加に伴いアレルギーのある児童生徒数も増加していることから、ヒヤリハット事例を踏まえながら、引き続き安全で安心な給食を提供できるよう進めていく。</p>
-----------	--

点検評価調査

Ⅱ 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる [教育環境]

1 教育環境整備の充実

(★は、重点的な取組) 教育総務課・学務課・学校給食課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
1 安全な学校・幼稚園施設等の充実★	<p>○印西市学校施設長寿命化計画に基づく改修工事及び校舎増築工事</p> <p>○学校給食センターの老朽化への対応</p> <p>○管理・教材備品等の整備</p>	<p>○令和6年度は、大森小学校大規模改修工事、原山小学校保全改修工事、小林小学校大規模改修工事設計業務を行った。</p> <p>○猛暑による配膳員の体調管理や給食の温度管理のため、小学校2校、中学校2校の配膳室に空調設備を設置した。</p> <p>○令和6年度は、管理備品としてテント等の購入を行い、教材備品としてもロイター板、跳箱等の購入を行い整備を図った。また、令和7年度の児童生徒増分として688台のパソコンを購入した。</p>
事業評価★	A	
2 就学援助の充実	○経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に就学援助を実施	○要保護・準要保護家庭の小学校213名、中学校165名、合わせて378名の児童生徒に対して、就学援助費を給付した。
事業評価	A	
3 修学旅行費補助事業	○小中学校が実施する修学旅行に際し、保護者が負担する費用の一部を補助	○小学校18校、中学校9校に対し、修学旅行費補助を実施した。
事業評価	A	
4 通学費補助事業	○小中学校への通学手段として、路線バスを利用している児童及び生徒に対し、定期乗車券分を全額補助	○印西市立中学校への通学手段として路線バスを利用している生徒37名に対して通学費を補助した。
事業評価	A	
5 スクールバスによる通学支援	○指定校への通学が遠距離又は危険な通学路を回避できない児童に対する通学支援として、スクールバスを運行	○7小学校に対して12ルート12台のスクールバスを運行した。このうち、4小学校5ルートを令和6年度から運行を開始した。
事業評価	A	

今後の施策の方向性	<p>就学援助制度や通学費補助制度を必要とする世帯が利用しやすいよう、周知方法や手続き方法について、引き続き検討していくとともに、学校との連携を図りながら効率的に事業をすすめていく。</p> <p>また、今後も計画的な学校施設等の改修工事及び児童・生徒数の増に対する学校校舎増築工事を行う。</p>
-----------	---

点検評価調査

Ⅱ 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる [教育環境]

2 学校の適正規模・適正配置の推進 学務課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
1 学校の適正規模・適正配置の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の適正規模・適正配置の推進 ○学校適正配置審議会の開催 ○保護者説明会等の実施 ○通学区域審議会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○過大規模校の原小学校及び将来過大規模校化が予測される西の原中学校を分離し、（仮称）東の原義務教育学校とする方針とした。 ○審議会を1回開催し、第二次学校適正規模・適正配置基本方針の進捗状況を報告した。 ○通学区域制度の弾力的運用に関する学校見学会を、10回開催した。 ○原小学校過大規模校の対応に係る意見交換会を、自治会役員会に対し4回、地域住民及び保護者に対し4回開催した。 ○案件がなかったため、開催しなかった。
事業評価	A	

今後の施策の方向性	次期教育大綱を踏まえ、全市的な教育環境のあり方について検討を進めていく。
-----------	--------------------------------------

3 情報化社会に対応した教育の推進

（★は、重点的な取組） 指導課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
1 ICT環境の整備と活用	<ul style="list-style-type: none"> ○教科指導用ICT関連環境整備の充実 ○校務支援システムの機能の充実 ○校務支援システムを活用した学籍、成績、保健等の校務情報化の推進 ○公簿や文書、教育情報の電子化の推進 ○各システムやサーバー・端末等の適正な運用管理 ○学校間グループウェアと文書管理システムを活用した教育関係資料・各種文書の電子化及び共有化 ○学校ホームページ及びメール配信システムの広報的機能強化 ○学校図書館システムの活用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○1人1台端末の活用に関する情報提供と、教育センターによるワンストップでの修理・トラブル対応を行った。 ○システム導入業者とのミーティングを毎月1回実施し、現場の要望のうち可能なものを機能に反映させた。 ○学籍、成績、保健情報を教育系サーバーにおいて一元管理し、安全かつ適切な情報管理に努めた。校務支援システムの利便性向上のためバージョンアップを実施した。 ○教育委員会からの通達文書のほぼ全てをデジタル化して、各校へ発信した。グループウェアの機能を利用して、校内デジタル回覧を行った。 ○保守管理の委託業者が適宜対応し、トラブルの未然防止と早期対応を図った。 ○教育委員会からの通達文書はグループウェアを利用して円滑に接受・校内回覧が行われるようにした。 ○小中学校ホームページにて日常的に情報を発信しており、市内小中学校全体で年間約1,500万件を超えるアクセスを得た。 ○学校図書館システム運用のための研修を年間1回実施した。
事業評価	S	

点検評価調書

Ⅱ 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる [教育環境]

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
2 情報教育の推進★	<ul style="list-style-type: none"> ○教育DX専門官の配置 ○SNS等対応ネットリテラシー教育の充実 ○情報セキュリティポリシー遵守の徹底 ○教育CIOの配置、ヘルプデスクの設置 ○教育資料の収集・活用・提供 ○教育センターホームページによる教育広報推進 ○教科等、情報教育、プログラミング教育におけるICT支援員の派遣、連携協定に基づく企業の支援を受けた研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育DX専門官を配置し、児童生徒及び教職員へのより高度な支援を行った。 ○学校からの要請により、教育センター指導主事によるネットリテラシー出前講座を10回行った。 ○教育センターから印西市情報セキュリティポリシーを校長会や教頭会で提示し、その遵守に努めるよう周知した。 ○教育CIOとして教育DX専門官を配置した。また、ヘルプデスクを常設し、市内教職員の操作上の質問について迅速に回答した。 ○各校の資料を教育センターで学校ごとに保管している。指導案は市内教職員で共有し、日常の指導に役立てている。ICTを活用した情報共有の仕組みを整えている。 ○印西市の教育施策や各校の取り組みなどの情報発信を行い、年間で74万件を超える閲覧数となった。 ○市内全校にICT支援員を配置した。また、校務支援システム研修等、外部講師を活用した研修を年3回実施した。
事業評価★	S	

今後の施策の方向性	<p>各学校において1人1台端末の日常的に有効的な活用を目指した取り組みが行われている。端末を教材・教具、文具として日常的に利用できるようになってきており、今後も市内小中学校への積極的な情報提供、市内教職員間の情報交流の場の設定、ICT支援員のより効果的な活用を図り、授業、校務の両面において情報化促進を図っていく。さらにより広い視点を持ち、校務・授業・保護者や地域との連携の観点で教育DX推進計画を推進していく。</p>
-----------	---

4 信頼される学校づくり

（★は、重点的な取組）指導課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
1 安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全教室の実施（市立幼稚園・小中学校対象） ○防犯教室の実施（市立幼稚園・小中学校対象） ○避難訓練の実施（市立幼稚園・小中学校対象） 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通指導員を派遣して、全幼稚園・全小中学校で交通安全教室を実施した。 ○防犯教室を全幼稚園・全小中学校で実施した。 ○避難訓練を全幼稚園・全小中学校で実施した。
事業評価	S	

点検評価調書

Ⅱ 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる [教育環境]

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
2 児童生徒・園児の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○学校安全に関する計画やマニュアルの見直しと定期的な施設点検の実施に関する指導・助言 ○防犯ブザーの貸与（小学新入生対象） ○自転車通学用ヘルメット貸与（中学新入生対象） ○メール配信システムの活用（市立幼稚園・小中学校等） ○防災行政無線を活用しての見守り活動の推進 ○安全主任等研修会の開催 ○こども110番の家の推進 ○台風・雷雨・竜巻等自然災害対応安全指導の充実 ○理科薬品の安全管理の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校より提出された防災計画・学校安全マニュアルの内容の点検を行った。また、諸表簿点検の際に指導主事等による確認を行った。 ○防犯ブザーを小学校1年生及び転入生に貸与した。 ○自転車通学用ヘルメットを自転車通学の中学校1年生に貸与した。 ○防犯情報、活動予定等を保護者等にメール配信し、主に緊急を要する情報の提供を図った。 ○防災行政無線を活用し、火・木・土・日の週4回の防犯無線を継続的に実施した。 ○安全主任等研修会を1回実施した。 ○小中学校で「こども110番の家」の設置を推進した。 ○自然災害への対応について、事前に各校へ注意喚起を促すとともに、各校では児童生徒への指導を行った。 ○小中学校の理科薬品管理簿を点検し、確認事項や改善が必要な点について指導・助言を行った。
事業評価	S	
3 通学路の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○印西市通学路交通安全プログラムに基づいた通学路安全点検の実施と関係課、関係機関との連携・対応 ○安全マップを活用した児童への安全教育及び保護者・関係機関・関係者との情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校で通学路の点検を実施するとともに、関係各課・関係機関と連携し、通学路の改善を図った。 ○安全マップ更新し、小学校1年生及び転入生に配付し、学区内の危険箇所に対する注意喚起を行った。
事業評価	S	
4 学校管理下における災害共済給付	<ul style="list-style-type: none"> ○日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入の推奨 ○災害給付手続きに関する学校への情報提供及び指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校を通じて加入の推奨を行った。（全員加入） ○手続きに関する手引きを各校に配付するとともに、研修会等で指導・助言を行った。
事業評価	S	
5 学校情報公開と地域の連携★	<ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページを活用した学校広報の充実 ○教育センターホームページを活用した各学校の取組の共有化 ○地域人材の活用（学校・家庭・地域の連携） ○学校評価による学校教育の改善 ○学校公開授業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページをほぼ毎日更新し、学校での活動の周知に努めた。小中学校併せて年間1,600万件弱の閲覧があった。 ○学校の様子を教育センターホームページに転載するとともに、ICT活用専用サイトや教職員専用サイトを作成し、情報の共有に努めた。 ○読み聞かせや職業人の講話等、地域人材活用の工夫に努めた。 ○各校の学校評価を分析し、学校にフィードバックを行うことで、各校の取り組み改善の推進を図った。 ○小中学校で分散型授業参観やオンライン授業参観等の工夫をし、授業公開の推進を図った。
事業評価★	A	

点検評価調書

Ⅱ 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる [教育環境]

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
6 働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の勤務状況の把握及び改善の指導・助言 ○校務支援システムの活用促進 ○オンライン会議・研修の促進 ○ICカードを活用した出退勤時刻の客観的な把握 ○webフォームを活用した各種調査・アンケートの実施 ○保護者宛文書のデジタル配信 ○中学校への自動採点システムの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ○出退勤等の勤務状況に基づき、必要に応じて職員へ指導・助言を行った。 ○児童生徒の学籍、成績、保健情報を安全に一元管理し、事務文書の発出や提出のデジタル化の推進を図った。 ○必要に応じてオンライン会議を実施した。 ○各学校で、ICカードを利用した出退勤時刻の管理を行うことにより、職員の勤務状況を把握した。 ○全小中学校において、webフォーム等を用いた調査やアンケート集計を実施した。 ○全小中学校において、電子配信ツールを用いて、保護者宛文書を送信し、省力化、省資源化を図った。 ○全中学校に自動採点システムを導入し、採点や集計負担の軽減が図られた。
事業評価	S	

今後の施策の方向性	<p>集合型・体験型の事業について、従来どおりの方法で実施できるようになり、学校安全を推進できたので、事業を継続し、更に施策の推進を図る。</p> <p>宅地開発が進み道路事情の悪い地域があるので、今後も通学路の安全対策を充実させる必要がある。引き続き各学校での点検や要望を踏まえながら、関係課や関係機関と連携し速やかな対応を図っていく。</p> <p>全ての小中学校で学校ホームページを日常的に更新し、学校の取組を発信することができている。今後もICT教育を推進し、各学校での取組の周知や行事の公開など、オンライン方式を含め、発信を推進していく。他の事業についても教育DXによる効率化を図っていく。</p>
-----------	--

点検評価調書

Ⅲ 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する〔文化・芸術〕

1 文化・芸術活動の推進

（★は、重点的な取組）文化振興課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
1 文化・芸術事業の充実	○文化ホール自主文化事業の実施	○指定管理者が管理運営を行い、自主文化事業26事業（鑑賞1事業、育成7事業、普及育成2事業（創出4事業））を実施。参加者数は10,972人（鑑賞5,277人、育成4,951人、普及育成76人創出668人）。
事業評価	A	
2 文化・芸術活動の支援★	○市民文化祭の実施 ○市民の地域文化活動への支援 ○文化・芸術団体活動への支援 ○文化・芸術情報の提供 ○芸術ホール及びアートギャラリーの整備	○市民文化祭及びオンライン文化祭を実施した。参加者及び来場者数は5,738人、出展数はオンラインを含めて302点であった。 ○市民の自主的な文化活動に対して、社会教育施設及び文化施設における活動支援、文化芸術関連情報の提供、成果の発表・発信の場の提供を行った。 ○文化芸術団体に対する活動及び発表の場の提供を支援し、事業の共催や後援により、各種団体活動の支援を行った。 ○公民館・文化ホール等の窓口へのポスター・チラシ等の配布、市ホームページへの掲載、関係団体への資料提供を行った。 ○令和7年4月のオープンに向け事業者と調整を行い準備を進めた。
事業評価★	A	
3 子どもたちの文化・芸術活動の充実	○文化・芸術活動体験の実施	○市民文化祭において文化芸術体験の機会を設けるため茶道体験を行った。また、体験会の公募を行い、けん玉体験を行った。
事業評価	A	
4 文化・芸術活動を支える人材育成の推進	○芸術文化協会と連携し、地域の文化・芸術活動を支える人材育成を支援	○印西市芸術文化協会と連携し、各加盟団体の公益的で自主的な活動の支援を行った。また、印西まちなか音楽祭を実行委員会と共催し、市民自らが取組みを行った。
事業評価	A	

今後の施策の方向性	文化芸術活動については、各事業相互に関わりがあることから一体的に推進していくことが効果的であり、事業の実施にあたっては関連する事業などにも留意しながら取り組んでいく。また、次代を担う子どもたちに対し、伝統文化等を確実に継承・発展を目的とした事業の取り組みや、学校教育部門とも連携しながら充実に努めていく。
-----------	--

点検評価調書

Ⅲ 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する[文化・芸術]

2 文化財の保護・活用の推進

(★は、重点的な取組) **文化振興課**

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
1 指定文化財保護事業★	<ul style="list-style-type: none"> ○有形文化財、史跡及び天然記念物の保存 ○無形民俗文化財の継承支援 ○文化財の普及啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財所有者等に対し、文化財保存管理経費に伴う補助金を交付した。また、市指定史跡の環境保全に努めた。 補助金交付9団体793,000円 ○指定無形民俗文化財の保存・継承活動に対し補助金を交付した。 補助金交付6団体1,810,000円 ○地域における文化財愛護思想の普及と防災意識の向上のため、文化財防災訓練を実施した。また、無形民俗文化財チラシを作成・配布するなど啓発に努めた。
事業評価★	A	
2 文化財基礎調査事業	○仏像調査の調査報告書刊行準備	○印旛地区仏像調査の追加調査・調書整理を実施した。
事業評価	A	
3 埋蔵文化財の保護事業	<ul style="list-style-type: none"> ○市内主要遺跡調査の実施 ○埋蔵文化財の取扱い事務及び埋蔵文化財包蔵地の保護 ○道作古墳群等の保存 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内に多く所在する遺跡を保存・活用するため、主要遺跡のうち、武西百庚申塚の測量調査を実施した。 ○開発行為等に伴う発掘調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地の保護に努めた。 ○NP0法人小林住みよいまちづくり会と協働し、年3回の道作古墳群見学会を実施した。
事業評価	A	
4 文化財の活用事業★	<ul style="list-style-type: none"> ○有形文化財、史跡及び天然記念物の活用 ○無形民俗文化財の公開 ○埋蔵文化財の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財の適切な保存管理による公開事業を中心に取り組んだ。また、市民団体による史跡の保存及び活用事業を展開した。 ○指定無形民俗文化財の公開について、事業の周知・支援を行った。無形民俗文化財チラシの作成・配布や無形民俗文化財保存団体等による会議を開催した。また、伝統芸能フェスティバルのダイジェスト動画をホームページで引き続き公開するなど普及啓発に努めた。 ○発掘調査で出土した文化財について、修復可能な遺物については復元に着手し、その他については適正に管理保管している。また、前年度発掘調査分の報告書を作成し、適切な記録保存に努めた。なお、当該報告書は関係自治体等に配布し周知を図っている。
事業評価★	A	

Ⅲ 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する[文化・芸術]

2 文化財の保護・活用の推進

(★は、重点的な取組) 文化振興課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
5 印旛歴史民俗資料館運営事業	<p>○市域の考古、歴史、民俗等の資料の収集・保管・調査・研究及び成果の公表</p> <p>○常設展示の実施</p> <p>○講座及び体験型事業の実施</p>	<p>○資料の収集・保管 寄贈2件（7点） 令和5年度受け入れ資料等のくん蒸を実施し、温湿度の計測等を通じて収蔵・展示環境の維持に努めた。 収蔵資料の整理を実施した。</p> <p>○資料の調査・研究及び成果の公表 石造物調査（印旛地区）、考古資料調査（市内出土埴輪資料）、民俗資料調査（個人宅）、民俗行事取材を実施した。 歴史民俗資料館研究紀要第7号（400部）を刊行した。</p> <p>○主に印旛地区の民俗、考古、歴史資料を展示し、市内無形民俗文化財映像視聴を実施した。 開館日数285日、来館者数808人</p> <p>○資料館講座3講座、体験講座4講座を実施し、合計108人が参加した。</p>
事業評価	A	
6 郷土資料の収集・保存・展示★	<p>○分散化した歴史的資料の集約化の検討</p> <p>○集約化に伴う新たな歴史文化施設の検討</p>	<p>○市で保管する歴史的資料の保管場所、種別、数量などの確認を実施し、分散化している歴史資料の現状を把握し、集約化に向けた準備を進めた。</p> <p>○（仮称）印西市歴史文化施設基本計画を基に施設整備に向けた準備を進めた。</p>
事業評価★	A	

今後の施策の方向性	<p>概ね計画どおりに事業を実施し、市民に市の歴史や文化に触れる機会を提供できた。引き続き、文化遺産の価値や意義について、次世代に継承できるよう資料の収集・保存・活用に努める。</p> <p>文化財の収集及び活用については、工夫をしながら引き続き取り組んでいく。</p>
-----------	---

点検評価調書

Ⅲ 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する〔文化・芸術〕

3 市史編さん事業や地域史料の保存

（★は、重点的な取組）文化振興課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
1 市史編さん事業★	<ul style="list-style-type: none"> ○市史刊行に向けた資料収集・調査等の実施 ○市史講座等の実施 ○市史の刊行 ○市史刊行物の頒布 	<ul style="list-style-type: none"> ○編集会議2回、中世部会2回、近世部会3回 近世古文書調査 ○市史編さん講演会1回（参加者48人）、市史編さん講座3回（参加者延べ16人） ○市史研究誌『印西の歴史』第15号を刊行した。 ○277冊
事業評価★	A	
2 地域史料の保存及び活用	<ul style="list-style-type: none"> ○木下交流の杜歴史資料センターの管理・運営 ○古文書等の調査及び収集 ○古文書等の整理及び保存、活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○開館日数286日、来所者数2,821人 展示事業 常設展示 ○保管資料数 <ul style="list-style-type: none"> 寄贈 130件 約3,300点 寄託 49件 約34,000点 購入 4件 415点 収集 地域新記事 148点 地域情報紙 381点 広告 626点 行政資料 304点 図書目録 197点 政治関係 167点 図書目録 197点 政治関係 167点 ○資料整理 <ul style="list-style-type: none"> 個人宅資料 約1,011点 環境調査 センターにおける資料保存環境調査を実施した。 資料燻蒸 令和5年度及び6年度受け入れ資料の燻蒸を実施した。
事業評価	A	
3 歴史公文書の収集、整理保管	○歴史公文書の引継、整理保管	○移管文書45箱（文書保存箱換算）、引継件数1,109件、保管数量約1,965箱（文書保存箱換算）、行政資料の収集304件
事業評価	A	

今後の施策の方向性	事業を継続するとともに、資料の整理を進め、活用を図る。
-----------	-----------------------------

点検評価調書

Ⅳ 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる [生涯学習・青少年健全育成]

1 多様な学習機会の提供

(★は、重点的な取組) 生涯学習課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
1 生涯学習情報の提供	○生涯学習ガイドの発行 ○生涯学習ガイド冊子の内容を市ホームページで提供	○300部発行し、講座、講師、団体、物品、施設情報を掲載した。ガイドは市内各施設（支所・公民館・保育園・幼稚園・小中学校・コミュニティセンター等）に配置した。 ○市ホームページに掲載し、随時追加情報の更新を行った。年間1,432回の閲覧があった。
事業評価	A	
2 市民アカデミーの充実★	○市民アカデミーの充実 ○公民館・地域交流館などの事業での活用の充実	○学習プログラムの、充実を図り、幅広い学習機会に努めた。 ○複数の講座等を公民館・地域交流館で実施した。※卒論発表会、修了式を除く
事業評価★	A	
3 公民館・地域交流館主催事業の充実	○市民ニーズや社会的課題をとらえた事業の実施 ○子ども対象事業の充実 ○大人対象事業の充実 ○団体や行政等との共催事業の充実	○資産経営・相続学習・資産運用 3講座（延べ55人） ○工作・学習講座 35講座（延べ12,719人） ○趣味・教養・工芸等 28講座（延べ3,148人） ○共催事業 2講座（延べ38人）
事業評価	A	
4 生涯学習まちづくり出前講座の充実	○地域づくりにつながる学習機会の提供、市民参画のきっかけとなる生涯学習まちづくり出前講座の充実	○市ホームページや広報で出前講座の周知に努めた。年間37件、896人が受講した。
事業評価	A	
5 産学官民の連携・協力	○大学などの高等教育機関や企業などとの連携・協力 ○市民・市民団体との連携・協力	○順天堂大学と生涯学習公開講座を実施し、親子スポーツ教室として年3回、15組50人が参加した。 ○市民アカデミーの講師や視察ガイドとして、市民団体と連携を図った。
事業評価	A	
6 社会教育関係団体の支援★	○社会教育関係団体の支援・連携強化 ○ボランティアの育成や地域で活動する個人・団体のネットワーク化の推進	○活動支援のための補助金を交付するほか、事業後援等の支援を行った。（補助金交付団体：37団体、後援：30事業） ○市民アカデミーの卒業生や受講者が市民活動団体に加入するなど、新たな社会教育団体の立ち上げ等の機会づくりによる市民活動団体のネットワーク化への推進を図ることができた。
事業評価★	A	

点検評価調書

Ⅳ 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる [生涯学習・青少年健全育成]

今後の施策の方向性	<p>継続事業については、事業効果を検証しつつ、より多くの市民の方への情報提供に努める。</p> <p>市民アカデミー卒業生など、学習成果を地域に還元できる仕組みづくりについて、具体的な方策の検討を進める。</p>
-----------	---

2 図書館サービスの充実

(★は、重点的な取組) 生涯学習課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
1 図書館サービスの充実★	<p>○資料の収集・管理及び提供</p> <p>○レファレンスサービス事業の充実</p> <p>○電子書籍の提供など非来館型サービスの充実</p> <p>○利用しやすい施設のあり方の調査・研究</p> <p>○民話絵本の作成</p>	<p>○市立図書館6館で、購入・寄贈により図書を14,090冊、雑誌を3,153冊、視聴覚資料を133点受け入れ、延べ268,536人の利用者に822,646点の図書館資料の貸出しを行った。</p> <p>○市立図書館6館において、窓口・電話でのレファレンスを20,458件受付けした。</p> <p>○1,036点の電子書籍資料を提供した。</p> <p>○小倉台・印旛・本埜図書館各館の改修工事設計を行った。</p> <p>○「そうふけっぱらのきつね」を2,000部増刷し県内各図書館や市内小中学校等に配布した。</p>
事業評価★	A	
2 子ども読書活動の推進	<p>○読書活動を深める機会の提供・充実</p> <p>○読書環境の整備・充実</p> <p>○読書活動に関する情報の普及・啓発</p>	<p>○通年で行うおはなし会（全館）に1,471名、夏のおはなし会（大森・印旛）に66名、クリスマス会（大森・小倉台・本埜）に93名の参加があった。小学校の職場見学は、大森小6名（大森）、木刈小41名（小倉台）、小倉台小35名（小倉台）を受け入れた。中学生職場体験は印西中2名（大森）、船穂中2名（そうふけ）、木刈中7名（大森4名、小倉台3名）、小林中2名（本埜）、原山中2名（そうふけ）、西の原中10名（大森4名、そうふけ2名、小倉台4名）、印旛中5名（印旛3名、本埜2名）、滝野中2名（本埜）を受け入れた。</p> <p>○市立図書館6館で、購入・寄贈により児童書を4,450冊受け入れた。</p> <p>読み聞かせや絵本の選び方についての方法を学んでもらうため、出前講座「読んであげよう！」に3回、子育て支援センターなどに職員を講師として派遣した。</p> <p>○「としょかんつうしん」を年6回、絵本のブックリスト「えほんのくに」を年3回、小学生向けのブックリスト「ほんのタネ！」を年1回、中学生向けのブックリスト「Book de Go!」を年1回発行し、情報の提供を行った。</p> <p>こどもの読書週間事業として、「図書館クイズ」（大森：155名、小林：76名参加）、「スタンプラリー」（そうふけ：247名参加）、「児童特別展示」（小倉台・印旛・本埜）を行った。</p>
事業評価	A	

点検評価調書

Ⅳ 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる [生涯学習・青少年健全育成]

今後の施策の方向性	「図書館サービスの充実」「子ども読書活動の推進」事業については、一定の実績があげられ、効果があったので、施策の目的を達成するため事業を継続する。
-----------	--

3 生涯学習施設の整備・充実

(★は、重点的な取組) 生涯学習課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
1 生涯学習環境の整備・充実★	<ul style="list-style-type: none"> ○公民館や地域交流館、図書館の適正な維持・改修 ○生涯学習施設の充実 ○社会教育主事の配置 ○本埜公民館保全改修実施 ○（仮称）千葉ニュータウン中央駅圏複合施設整備事業の実施 ○小倉台図書館保全改修工事基本設計・実施設計 	<ul style="list-style-type: none"> ○公民館・交流館設備等の修繕を行い、施設の適切な維持に努めた。 ○各公民館・地域交流館でそれぞれの地域の特徴を活かした主催事業を行った。 ○令和6年4月に2名の配置を行った。 ○本埜公民館の保全改修を実施した。 ○新施設の建設完成、及び旧1号館の改修完了し令和7年4月にオープンした。 ○小倉台図書館保全改修工事の実施設計を行った。
事業評価★	A	

今後の施策の方向性	今後も施設の老朽化に伴う改修、維持管理を適切に実施する。
-----------	------------------------------

点検評価調書

Ⅳ 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる [生涯学習・青少年健全育成]

4 家庭と地域の教育力向上と青少年健全育成

(★は、重点的な取組) 生涯学習課

事業	事業内容（令和6年度目標）	令和6年度実績
1 家庭教育学級の充実★	○各公立幼稚園・小中学校での家庭教育学級開設 ○家庭教育学級主事会議の開催 ○家庭教育学級運営委員研修会の開催 ○家庭教育指導員の配置	○全体で34学級開設した。 【内訳】 幼稚園 1園、小学校 18校（延べ23学級）、 中学校 9校（延べ10学級） ○年2回主事会議を開催し、情報共有を図った。 ○年2回研修会を開催し、学校と家庭における情報共有を図った。 ○家庭教育学級指導員を1名配置し、指導・助言にあたった。
事業評価★	A	
2 こども110番の家の推進	○こども110番運営委員会などの支援 ○こども110番ステッカー・看板の提供	○事業説明会の開催や損害賠償保険の加入などの支援を行った。 ○各学校へステッカー・看板の提供を行った。協力者数の調査を実施し、1,601件にご協力をいただいた。
事業評価	A	
3 青少年健全育成大会の実施	○社会を明るくする運動との共催による青少年健全育成大会の実施	○6月29日に同大会を実施し、約380名の方が来場した。
事業評価	A	
4 地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実	○中学校区ごとに学校や地域で活動する団体が協力し、コミュニティづくりと生活環境の整備を図る地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の支援	○6中学校区（船穂、木刈、小林、西の原、滝野、本埜）に対し補助金を交付し、各種事業の活動を支援した。
事業評価	A	
5 放課後子ども教室の実施	○放課後子ども教室の実施	○滝野小・本埜小・原山小放課後子ども教室を実施した。滝野小46人、本埜小29人、原山小79人の利用登録があった。
事業評価	A	
6 二十歳を祝う会の実施	○当該年度に20歳となる方々の企画・運営による二十歳を祝う会の実施	○市内全中学校区を対象に令和7年1月12日に松山下総合体育館において、式典形式で開催した。（対象者：1,117名、参加人数：715名）
事業評価	A	
今後の施策の方向性	地域・学校・家庭が連携し、地域の教育力の向上のため、学校運営協議会制度の導入を推進するとともに、併せて地域学校協働活動の一体的推進を図るため各種制度を検討する。	

第2期教育振興基本計画（R4～R7）の成果指標に対する達成状況

評価基準
101%以上：S
80～100%：A
60～79%：B
59%以下：C

I 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む（学校教育）

項目	目標（R7）	実績（R6）	達成度 （実績/目標）%	評価
全国学力・学習状況調査における全国平均100に対する相対	103	102.2	99%	A
※学校評価（豊かな心に関する2項目）における児童生徒の肯定的回答率（%）	97	96	99%	A
体力テストにおいてTスコア（偏差値）が満足できると判定された項目の割合（%）	70	13	18.5%	C

※学校評価（豊かな心に関する2項目）

○友達への思いやり（あなたは、友達を大切にしていますか。）

○道徳・心の教育の充実（あなたは、自他のいのちを大切にし、感謝の気持ちを持って生活していますか。）

II 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる（教育環境）

項目	目標（R7）	実績（R6）	達成度 （実績/目標）%	評価
※学校評価（家庭・地域連携に関する項目について）における保護者の肯定的回答率（%）	81	66.0%	81.5%	A
※学校評価（家庭・地域連携に関する項目について）における児童生徒の肯定的回答率（%）	88	82	93.2%	A
※学校評価（学校の施設・設備に関する項目について）における保護者・児童生徒・教職員の肯定的回答率（%）	80	79.0%	98.8%	A

※学校評価（家庭・地域連携に関する項目について：保護者）

○家庭や地域との連携・協力（学校は、市の地域や環境・施設・人材を教育活動にいかしていると思いますか。）

※学校評価（家庭・地域連携に関する項目について：子ども）

○家庭や地域との連携・協力（保護者や地域の人と行う活動は充実していますか。）

※学校評価（学校の施設・設備に関する項目について：保護者・児童生徒・教職員）

○施設設備の改善・充実（学校の施設・設備は整っていると思いますか。）

Ⅲ 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する（文化・芸術）

項目	目標（Ｒ７）	実績（Ｒ６）	達成度 （実績/目標）％	評価
文化・芸術に満足している人の割合（％）	39	41.3	105.9%	S
無形民俗文化財の指定数（件）	6	6	100.0%	A
文化財の指定件数（件）	49	49	100.0%	A
文化ホールの自主事業数（事業）	12	26	217.0%	S

Ⅳ 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる（生涯学習・青少年健全育成）

項目	目標（Ｒ７）	実績（Ｒ６）	達成度 （実績/目標）％	評価
生涯学習に関して満足している人の割合（％）	39	45.2	115.9%	S
図書館個人登録率（％）	31	22.9	73.9%	B
公民館の貸部屋の年間利用率（％）	45	49	109.0%	S

4 評価のまとめ

(1) 評価内訳

基本目標における主な取組毎の評価内訳は、以下のとおり。

※ 評価基準

- S…事業の目標が達成され、計画以上の効果が認められる。
- A…事業の目標が概ね達成され、効果が認められる。
- B…目標が一部達成できなかった。
- C…目標が未達成の事業であり、効果がほとんど認められない。

各事業の事業内容（令和6年度目標）に対し、進捗、達成度を総合的に判断し、S～Cの4段階の基準において自己評価しました。

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

1 子どもたちの学ぶ力を育む	
(1) 個性や能力を伸ばす教育の推進	S
(2) 教職員研修（主任・層別等）の充実	S
(3) 指導法等の研修の充実	S
(4) 校内研修の支援	S
(5) 教育課題調査・研究・開発	S
(6) 教育研究団体支援事業	A
(7) 幼児教育の充実	S
(8) 読書活動推進のための学校図書館の整備	A
(9) 市立図書館との連携事業の開催	A
(10) 国際理解教育の推進	S
(11) 特別支援教育及び支援体制の充実	S
(12) 教育支援の推進	S
(13) キャリア教育の推進	A
2 子どもたちの豊かな心を育む	
(1) 道徳教育の充実	S
(2) 人権教育の推進	A
(3) 文化・芸術体験事業の充実	S
(4) 体験活動の充実	B
(5) 郷土愛を育む教育の推進	A
(6) 適応指導教室事業の推進	S
(7) 教育相談の充実	S

3 子どもたちの健やかな体を育む	
(1) 学校体育の充実	A
(2) 運動部活動の充実	A
(3) 健康教育の推進	A
(4) 学校保健会の活動の充実	A
(5) 健康診断の実施と事後措置の徹底	S
(6) 小児生活習慣病の予防	A
(7) 口腔衛生事業の推進	A
(8) 保健室機能の充実	S
(9) 学校環境衛生の充実と感染症対策の徹底	S
(10) 食に関する指導の推進	A
(11) 学校給食の充実	A

Ⅱ. 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、
教育環境を充実させる [教育環境]

1 教育環境整備の充実	
(1) 安全な学校・幼稚園施設等の充実	A
(2) 就学援助の充実	A
(3) 修学旅行費補助事業	A
(4) 通学費補助事業	A
(5) スクールバスによる通学支援	A
2 学校の適正規模・適正配置の推進	
(1) 学校の適正規模・適正配置の推進	A
3 情報化社会に対応した教育の推進	
(1) I C T環境の整備と活用	S
(2) 情報教育の推進	S
4 信頼される学校づくり	
(1) 安全教育の充実	S
(2) 児童生徒・園児の安全確保	S
(3) 通学路の安全確保	S
(4) 学校管理下における災害共済給付	S
(5) 学校情報公開と地域の連携	A
(6) 働き方改革の推進	S

Ⅲ. 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する〔文化・芸術〕

1 文化・芸術活動の推進	
(1) 文化・芸術事業の充実	A
(2) 文化・芸術活動の支援	A
(3) 子どもたちの文化・芸術活動の充実	A
(4) 文化・芸術活動を支える人材育成の推進	A
2 文化財の保護・活用の推進	
(1) 指定文化財保護事業	A
(2) 文化財基礎調査事業	A
(3) 埋蔵文化財の保護事業	A
(4) 文化財の活用事業	A
(5) 印旛歴史民俗資料館運営事業	A
(6) 郷土資料の収集・保存・展示	A
3 市史編さん事業や地域史料の保存	
(1) 市史編さん事業	A
(2) 地域史料の保存及び活用	A
(3) 歴史公文書の収集、整理保管	A

Ⅳ. 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる〔生涯学習・青少年健全育成〕

1 多様な学習機会の提供	
(1) 生涯学習情報の提供	A
(2) 市民アカデミーの充実	A
(3) 公民館・地域交流館主催事業の充実	A
(4) 生涯学習まちづくり出前講座の充実	A
(5) 産学官民の連携・協力	A
(6) 社会教育関係団体の支援	A
2 図書館サービスの充実	
(1) 図書館サービスの充実	A
(2) 子ども読書活動の推進	A

3 生涯学習施設の整備・充実	
(1) 生涯学習環境の整備・充実	A
4 家庭と地域の教育力向上と青少年の健全育成	
(1) 家庭教育学級の充実	A
(2) こども110番の家の推進	A
(3) 青少年健全育成大会の実施	A
(4) 地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実	A
(5) 放課後子ども教室の実施	A
(6) 二十歳を祝う会の実施	A

(2) 基本目標別評価

基本目標別の主な事業の評価数は以下のとおり

番号	基本目標	主 な 取組数	事業数	事業の評価数				
				S	A	B	C	—
I	知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む 〔学校教育〕	3	3 1	1 6	1 4	1	0	0
II	子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる 〔教育環境〕	4	1 4	7	7	0	0	0
III	市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する 〔文化・芸術〕	3	1 3	0	1 3	0	0	0
IV	市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる 〔生涯学習・青少年健全育成〕	4	1 5	0	1 5	0	0	0
計		1 4	7 3	2 3	4 9	1	0	0

(3) 学識経験者の知見の活用

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第2項には、事務事業の点検及び評価を実施するに当たっては、教育に関し学識経験を有する方の知見の活用を図ることが定められております。

このため、印西市教育委員会では事務事業が適切に実施されているか、点検評価委員2名から書面で意見をいただいております。

※敬称略

分 野	氏 名	役 職
学 校 教 育 分 野	三 浦 明 久	元中学校長 元市教育委員会指導主事
生 涯 学 習 分 野	松 山 徹	元社会教育委員 元小学校長

《学校教育分野》 評価者：三浦 明久 委員

令和6年度学校教育分野に係る点検評価については、どの項目も「実績」「事業評価」「今後の施策の方向性」が的確に記載され、ほとんどの項目で事業評価が「S」と「A」となっており、優れた成果を上げています。数値化による評価で可視化がしっかりでき、次年度以降の取組の方向性を導きやすいと考えます。今年度の課題を整理し、次年度へ向けてさらなる改善と工夫が行われることを期待します。

I 知・徳・体の調和の取れた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

1 子どもたちの学ぶ力を育む

- (1) 新規採用教員の大量採用が続いています。教員数における若年層教員の占める割合は年々高くなっています。中学校では初年度から担任を持つことも多くなり、教科経営だけでなく学級経営に困り感を持つ教員も増えていると思います。基本的な授業技術や学級経営についての指導助言の取組を今後も一層充実させていくことをお願いします。
- (2) 個性や能力を伸ばす教育の推進では、漢字級別認定テストや計算力認定テストの実施、生徒指導の機能を重視した「わかる授業」やICTを活用した授業の推進、学校支援ボランティア、学生ボランティアの活用などの様々な取組を展開していることが評価できます。ICTの活用については、子どもたちの学習意欲を高め、主体的・協同的な学習を促すとともに、変化の激しい社会に対応できる力を育むために、一層推進してほしいと思います。ICTを活用した授業づくりの推進と支援については、校内研修会および少人数研修会の開催回数が前年度と比較して大幅に増えたことは、教員のスキル向上に大きく影響していると思われます。教職員のキャリアステージに則したスキル向上につながる研修会の内容充実に一層努めてほしいと思います。
- (3) デジタル教材の活用については、web上の素材の効果的な授業内での活用のための支援の一層の充実を期待しています。また、デジタル教科書については、中央教育審議会でも話題となっています。次期学習指導要領での使用拡大への動きを見据え、どう対応するかを検討も視野に入れて準備していくことを期待します。
- (4) 教職員の資質や指導力を高めるため、教職員を対象とした研修に教育委員会が積極的に関わっていることがうかがえます。学校教育の中心である「授業」が子どもたちにとって魅力あるものになるように今後も研修内容の見直し、改善に努めてほしいと思います。
- (5) 校内研修の支援では、指導主事等を派遣し、積極的な取組が見られます。教職員のニーズに則して、一層充実した支援をお願いします。
- (6) 教育課題調査・研究・開発については、児童生徒個人の経年変化が見られる学力調査を実施し、教科学力と学習意識の向上を図る取組は、児童生徒個々の学習課題の気づきと対応の見通しを持つ上で大いに役立ちますので、今後も継続していくことをお願いします。県教育委員会が毎年公表している千葉県公立高等学校入学者選抜における学習成績の分布では市内中学校の評定合計平均値に大きな差異が見られます。各中学校における評価の規準（のりじゅん）や基準（もとじゅん）について明確な根拠が常に示されるよう適切な指導や助言、支援をお願いします。また、評定の公平性を担保するために市としての統一テスト実施等の新たな取組の検討も必要だと思います。
- (7) 幼児教育の充実は、その後の小中学校教育の充実にも大きく影響することが考えられますので、家庭や関係課との連携を引き続きお願いします。また、小学校の職場見学や中学校の職場体験の実施、加えて中学校家庭科での保育実習の場としての提供など今後も異校種交流が円滑にできるよう、支援をお願いします。

- (8) 読書活動推進のため、学校司書の配置、研修会や連絡会の開催、図書システムの活用や市立図書館との連携など、様々な取組を行っています。文化庁が行っている「国語に関する世論調査」によるとスマートフォンやSNSの普及の影響で本を読まない人が増えているとの結果もあります。本市の取組が子どもたちの読書量にどのような変化があるか、丁寧に検証していくことを期待します。
- (9) ALTやコーディネーターの配置、小学校英語活動、「印西英語マスター」の実施等を通して、国際理解教育の推進に努めています。日本語指導員の配置も昨年よりも増えています。今後増加が予想される外国人児童生徒や帰国児童生徒が円滑な学校生活を送るためにも支援に必要な多くの人材確保をお願いします。
- (10) 特別支援教育の推進については、個別指導計画や個別支援計画の作成、学習指導員や介助員の配置、相談活動やケース会議の実施、家庭や関係課・関係機関との連携など、様々な取組を通して児童生徒の教育的ニーズに対応した支援にあたっています。特に、コスモスファイルによって系統性のある指導や支援がより丁寧に行われていると思います。今後も引き続き子どもたちの社会的自立に向けた支援が充実することを期待します。
- (11) キャリア教育の推進については、市内194事業所の協力のもと、中学校職場体験学習を実施しました。生徒数が増加している中学校では事業所を確保することが年々厳しくなっていると思います。実施形態の工夫や代替事業の創出なども視野に入れていく必要が考えられますので、今後の検討課題として念頭に置き、学校の支援をお願いします。また、学校の規模に応じてですが、県教育委員会事業の教育CSRも効果的に活用できると思います。加えて、中学校の学級活動や総合的な学習の時間での1単位時間の授業では副教材である「中学生活と進路」の有効的な活用について積極的な助言を行うことで、より充実した授業が展開されることを期待します。キャリア・パスポートへの支援では、引き続き、小中高の円滑な接続ができるよう適切な助言や支援をお願いします。今後も子どもたちが、それぞれのキャリアステージを想像できるようなキャリア教育の推進を期待します。

2 子どもたちの豊かな心を育む

- (1) 道徳教育の充実では、子どもたちの豊かな心を育むために、核となる特別の教科道徳の授業が大切です。教員の授業力向上のための研修会の実施など、継続的な取組は大いに評価できます。1時間ごと（1単位時間ごと）の道徳授業の中で児童生徒が最適解や納得解に近づけるような授業構成となるよう指導方法の改善と工夫に努めてほしいと思います。授業で積み重ねた学びが、子どもたちの道徳的実践力の向上につながりますので、ますますの授業技術の向上を目指した学校への支援を今後も期待します。
- (2) いじめ防止対策会議を毎月1回以上実施し、いじめの実態把握や未然防止、早期発見等の対応に取り組んでいることは大いに評価できます。今後も学校や家庭、関係機関との連携を密にし、当該児童生徒にとって必要な支援をお願いします。また、教職員が「いじめの定義」の変遷内容を十分理解し、日々の児童生徒の生活の様子を見取る時の観察眼を磨くための指導・助言を積極的行うことを期待します。
- (3) 人権教育の推進の中で、LGBTQに関する正しい知識と理解を子どもたちに持たせることは将来的にも多様性を尊重する人権意識の基盤となります。児童生徒が学校においてカミングアウトなどの具体的な言動があった場合に全教職員が同一步調で適切な対応ができるよう教職員の人権感覚の醸成につながる取組を今後も継続してお願いします。
- (4) さわやかハートフルコンサートや小学校芸術鑑賞教室が開催できたことは喜ばしいことです。情操教育の一環として今後も継続した取組をお願いします。
- (5) 「ふるさと印西学」については、今後の検証と成果に期待します。
- (6) 不登校やいじめなどの悩みを抱える児童生徒の居場所として、「緑のまきば」、「森のステーション」の存在は大きなものがあります。学校においては校内適応指導教室が適切に運

営されることがより重要になってきます。特に、不登校については令和4年に改訂された文部科学省の生徒指導提要の中で問題行動ではないと示されています。より当該児童生徒の現状に寄り添い、困り感の軽減につながる支援を期待します。

- (7) 教育相談事業が積極的に展開され、充実した取組が見られます。面接相談・電話相談の実績が前年と比較すると面接相談が136件から90件、電話相談が63件から50件、子ども相談室の利用が33件から21件と減少しました。前年の丁寧な対応の成果を示す数字だと思われます。今後も不登校児童生徒等の相談や学校諸問題に対する指導・助言をお願いします。また、学校諸問題に対する助言・指導においてスクールアドバイザーの存在は、特に管理職にとっては必要不可欠な力強い存在になっていると思います。

3 子どもたちの健やかな体を育む

- (1) 学校体育や運動部活動の充実に向けて様々な事業が展開されていることは大いに評価できます。市内の順天堂大学との連携は、児童生徒にとって貴重な体験学習ともなっていると思います。さらなる連携の広がりを期待します。部活動の地域連携・地域移行（展開）においては、今年度、野球、バレーボールで行われていますが、他の部活動の本格実施へ向けて、取り残される生徒がでない活動形態、各競技の大会運営方法などについて関係者間での理解を深め、円滑な活動ができるような支援を今後も期待します。
- (2) 健康教育の推進について保健指導教材の整備、中学校での薬物乱用防止教室の実施など、様々な方法で支援しています。思春期におけるオーバードーズなどは社会的な問題としても取りあげられています。喫緊の健康教育の課題を整理し、学校への適切な指導と助言をお願いします。
- (3) 学校保健事業や学校環境衛生事業については、医師会や薬剤師会、養護教諭や栄養教諭などと連携して計画的に実施され、児童生徒の健康維持や改善に向けて、充実した取組が評価できます。健康診断については、今後も、家庭との連携を密にして、診断結果に基づき治療勧告し、受診率を上げる工夫を今後もお願いします。また、感染症の発生時や感染症拡大防止対策のために学校医への相談や助言を受けることは学校の正しい判断に寄与していると思います。今後も連携による衛生管理体制の整備に努めてほしいと思います。
- (4) 食育については、栄養教諭と養護教諭・学級担任等が連携した取組が展開されています。近年、偏った栄養摂取、朝食の欠食など食生活の乱れや肥満・痩身傾向など、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化していることから、今後も継続した取組を期待します。給食の献立における地場産物の活用は、子どもたちの「食」への関心を高めることにもつながります。また、食物アレルギーへの対策及び食物アレルギー対応食の提供は、子ども自身、保護者からの「食」の安心安全という点からも重要ですので、引き続きの取組をお願いします。

Ⅱ 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる〔教育環境〕

1 教育環境整備の充実

- (1) 令和6年度、大森小学校大規模改修工事、原山小学校保全改修工事、小林小学校大規模改修工事設計業務が行われました。計画的な事業が推進されていることは大いに評価できます。今後も開発状況や児童生徒数の推移を注視し、計画的な対応をお願いします。また、学校給食センターの老朽化への対応として小中学校各2校の配膳室に空調設備が設置されました。他校の状況も勘案し、今後も適切な対応となることをお願いします。
- (2) 就学援助に係る事業や修学旅行費補助事業、通学費補助事業については、関係児童生徒及び家庭にとって大きな助けになっています。今後も必要な児童生徒が制度を活用できるよう、学校と連携した取組を期待します。

2 学校の適正規模・適正配置の推進

- (1) 小中学校の大規模化への対応については、自治会役員会や地域住民及び保護者に対して複数回開催し、丁寧な対応をしています。関係者の理解を得ることは、地域に根ざした円滑な学校運営が行われる基盤ともなります。また、(仮称) 東の原義務教育学校の開校へ向けて、進捗状況などを含めた情報公開や情報発信などを積極的に行うことをお願いします。

3 情報化社会に対応した教育の推進

- (1) ICT環境の整備と活用では、様々な事業が積極的に推進されています。学校での授業における課題は、教職員のICT活用指導力の差が生じることだと思います。教職員の指導力の差が児童生徒の不利益にならないように研修会の開催、ICT支援員の配置や外部人材の支援など、教職員や学校への指導・支援を引き続きお願いします。

4 信頼される学校づくり

- (1) 学校安全については、安全教育、安全管理、組織活動等の観点から、様々な事業が展開されています。今後も、学校管理課の事故や交通事故を減らすことを目標に、事業の見直し及び学校への指導をお願いします。また、自然災害についての対応では、関係課や専門家とも連携し、学校区のハザードマップの有効的な活用事例を積極的に示すとともに、常に「最悪の事態」を想定して児童生徒自身が行動できるよう、工夫によっては教科指導の中でも可能ですので、避難所運営訓練(DIG)や災害図上訓練(HUG)に取り組めるよう、計画・実施のための学校への支援を期待します。
- (2) 各学校がHPをほぼ毎日更新し、年間1600万件を超えるアクセス数があり、前年より増えています。学校での教育活動の周知に努めていることは大いに評価できます。HPの内容構成も市全体での統一感があり、閲覧しやすくなっています。今後もより閲覧してもらえる情報発信を目指して、引き続き学校の支援をお願いします。
- (3) 地域人材の活用については、読み聞かせや職業人の講話等で活用が図られています。様々な領域での活用が進むことにさらに期待します。例えば、防災教育において防災士など専門分野の地域人材の積極的活用も期待します。
- (4) 働き方改革の推進に向けて、ICカードの活用、校務システムの活用、オンライン会議の実施には充実した取組が見られます。特に、一昨年度から導入された全中学校への自動採点システムは、採点作業や集計作業の負担を大きく軽減させたと思います。事務負担の軽減は、子どもたちと向き合う時間の確保に大きく関係してきます。他県で散見される具体的な例として小学校低学年での通知票廃止があります。既存の事務的内容を大胆に見直すことも大切であると考えます。引き続き、学校と連携し、市としての充実した取組を期待します。加えて、文部科学省作成の「働き方改革事例集」や県教育委員会作成の「学校における働き方改革事例集」を参考とする取組にも期待します。

《生涯学習分野》 評価者：松山 徹 委員

令和6年度の事業について、「実績」「事業評価」「今後の施策の方向性」が的確に記されており、よりよい内容への改善が進められています。各事業について、前年度の反省を生かした計画が着実に進められ、全ての項目がA評価となっていることは、担当している方々の努力の表れだと思います。

事業内容（令和〇年度目標）の中に取り組む事項や目標とする数値などが入ると、成果がよりはっきりするので、検討してください。

Ⅲ. 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する【文化・芸術】

1 文化・芸術活動の推進

(1) 文化・芸術事業の充実

日本の様々な文化・芸術に触れる機会を市民に提供することが文化ホールの大事な役割の一つです。文化・芸術事業については、指定管理者との連携が適切に行われており、参加者も昨年度と比べて増えています。年齢や興味関心等に応じた幅広い内容をバランスよく組み入れるとともに、印西市のゆかりの人材や伝統文化を取り入れていることがその要因だと思います。今後も事業内容の広報の仕方を工夫し、参加者を増やしていきましょう。

(2) 文化・芸術事業の支援

生涯学習社会において、学習の成果を発表する場の提供は大事です。市民文化祭において、オンライン文化祭との両立は大変だと思いますが、市民に多様な発表の場を提供するために引き続きお願いします。

文化・芸術関係団体には、高齢化が課題となっているところが多いと思います。活動の魅力が伝わり、新しい担い手が増えるように、今後もポスターやチラシの配布、ホームページへの掲載等に関して協力をお願いします。

(3) 子どもたちの文化・芸術活動の充実

市民文化祭において、普段できない伝統文化を体験する場が設置できたのはよかったと思います。今後は、市民文化祭以外でも伝統文化に触れたり体験したりできる場を設けてほしいと思います。

(4) 文化・芸術活動を支える人材育成の推進

印西市まちなか音楽祭を実行委員会と共催し、市民が中心となった活動ができたことは、人材発掘や育成に効果があったと思います。

地域の伝統文化に関しては後継者不足が課題となっています。活動団体からの相談に乗ったり、会員の募集や活動内容の広報に協力するなど、持続可能になるよう支援をお願いします。

2 文化財の保護・活用の推進

(1) 指定文化財保護事業

指定文化財の保護に関しては、環境整備や修理等に多額の費用や日数が掛かりま

す。今後も管理状況を定期的に把握するとともに、環境整備や修理等を計画的に進めていってください。また、文化財所有者に対しての指導・助言や補助金の交付は、市の財産でもある文化財を後世に残すために大事なことです。引き続きお願いします。

(2) 文化財基礎調査事業

地域の開発や仏像そのものの風化や破損等により貴重な歴史的資料が失われてしまうことが考えられます。印旛地区の仏像の現状について調査を進めてきた記録を整理し、資料を次世代に残せるようにまとめていってください。報告書の刊行を楽しみにしています。

(3) 埋蔵文化財の保護事業

市の文化財に指定されている遺跡の武西百庚申塚に関して、全体を保存するための調査が行われています。修復作業が順調に進み、市民に公開される日を楽しみにしています。

道作古墳群見学会については、市民団体と協働して行うことが定着しており、市民の文化財保護の意識を高めるのに役立っていると思います。

(4) 文化財の活用事業

指定の無形民俗文化財については、市の広報での紹介やチラシの作成・配布などにより公開日の見学者が増えてきています。今後も市民への周知を進めていくとともに、関係団体と協議しながら用具等の改修や後継者の育成についての支援をお願いします。

埋蔵文化財の活用については、学校と連携し、土器の貸し出しや出前講座の資料としての活用を検討してみてください。

(5) 印旛歴史民俗資料館運営事業

印旛歴史民俗資料館には、考古資料や印旛沼に関係する民俗資料等がコーナー毎に分かりやすく展示され、市民の学びの場として役立っています。

勾玉づくりや埴輪づくり、正月飾りづくりなどの体験講座や資料館講座なども行われており、限られたスペースでの企画運営には担当者の熱意を感じます。

施設の存在を知らない人もいますので、市の広報での紹介やチラシの配布等により周知し、来館者の数を増やしてほしいと思います。

(6) 郷土資料の収集・保存・展示

資料の集約化は、資料の収集・保存・展示のために大切なことだと思います。郷土資料は今後増えていくことが予想されますので、(仮称)印西市歴史文化施設基本計画に沿って場所を確保し、適切に整理保管していってください。

3 市史編さん事業や地域史料の保存

(1) 市史編さん事業

印西市の歴史について調査・研究し、その資料を残しておくことは大切です。『印西の歴史』第15号を刊行できたことは、担当した方々の努力の賜物です。また、昨年度刊行した『印西市史』通史編近現代に関連する講演会も行われ、市民に事業の成果を伝えるとともに、市史への関心を高めるよい機会になったと思います。

(2) 地域史料の保存及び活用

木下交流の杜歴史資料センターでは、調査した遺跡の写真や出土した土器、収集した絵地図や文書資料等が活用され、印西市の歴史について時代の流れに沿って分かりやすく展示されています。家族で楽しめる施設になっていますので、万葉公園と合わせて広報し、来館者を増やしてください。

古文書等の調査、収集、整理、保存については、数が多く時間や手間がかかり、苦勞の多い作業かと思います。計画を立て、紛失や破損がないように進めていってください。

(3) 歴史公文書の収集、整理保管

保管する公文書は市の移り変わりを知るうえで大切な資料です。毎年増えていきますので、十分なスペースを確保し活用しやすい収納保管に努めてください。

IV. 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる【生涯学習・青少年健全育成】

1 多様な学習機会の提供

(1) 生涯学習情報の提供

令和6年度発行の「生涯学習ガイド」については、市民の学びに関する情報が細かく掲載されており、生涯学習の大事な資料になっています。冊子と市のホームページへの掲載の両面で情報提供していますが、新しい情報が早い段階で反映できるホームページへの掲載のみでもよいのではないかと思います。

(2) 市民アカデミーの充実

一般教養課程では、毎年学習プログラムの見直しが行われており、今の印西市に合った新しい内容が組み入れられ、充実した内容になっています。また、研究課程の内容についても、参加者がテーマごとに協力して調査研究を進めており、質の高い論文や発表が行われています。学生の募集に際して広報の仕方を工夫したり、公開講座を開き市民アカデミーの内容について紹介したりするなど、引き続き参加者を増やす取り組みをしてください。

(3) 公民館・地域交流館主催事業の充実

それぞれの館が内容を工夫し、地域の特性を生かしながら主催事業を進めていることが分かります。また、講座の内容が多様で、大人向けと子ども向けの講座をバランスよく行っています。印西市の自然や文化、社会的課題をテーマとした講座については、意義深いものだと思いますので、今後もアンケートの実施等により市民のニーズに合わせて事業に組み入れるようにしてください。

(4) 生涯学習まちづくり出前講座の充実

市民の要望に応え市職員が出向いて行う講座は、地域住民、サークルや市民活動団体等への学習機会の提供とともに市行政の内容を伝えるよい機会にもなっています。講座を依頼された職員は大変だと思いますが、十分に打合せをし、参加者に合わせた分かりやすい講義をお願いします。

(5) 産学官民の連携・協力

順天堂大学と連携・協力した講座は、専門的知識を得たいという市民のニーズに合わせたものでよい企画だと思います。実施時期や内容等の見直し・広報の工夫等により参加者が増えるようにしてください。

市民・市民団体との連携・協力については、公民館の事業において積極的に進められており、生涯学習を促進する大切な取り組みだと思います。学習したことを生かすという観点から市民アカデミーを卒業した方々の活用をさらに進めていってください。

(6) 社会教育関係団体の支援

社会教育関係団体の活動は公益性が高いので、引き続き人数や活動内容を考慮し、補助金等の適切な支援をお願いします。

2 図書館サービスの充実

(1) 図書館サービスの充実

令和6年度は、利用者延べ約27万人、資料貸出数約82万点あり、図書館が市民の生涯学習における大切な場となっています。特に約2万件ものレファレンスサービスを行ったのは、市民の課題解決のための頼れる相談窓口となっている証だと思います。今後も丁寧で質の高い案内や助言、資料提供等ができるようにお願いします。

インターネットが積極的に活用される時代になり、図書館に求められるものも変わってきていると思います。市民のニーズをつかみながら、電子図書も含めて購入すべき資料の選定を行い、より一層魅力ある図書館づくりに努めてください。

(2) 子ども読書活動の推進

おはなし会は、子どもがお気に入りの本を見つけたり、読書の楽しさを味わったりできるよい機会です。時期に合わせて夏のおはなし会やクリスマス会など趣向を凝らした企画により、初めておはなし会に参加したり何度も足を運んだりするきっかけになっていると思います。準備や運営で苦労されていると思いますが、どこの図書館でも継続してほしいと思います。

児童書の購入・寄贈による受け入れ数が昨年度より大きく増えており、子ども読書活動の推進に役立つことと思います。今後も児童書の一層の充実に向けて整備を進めていってください。

読書活動に関する情報発信については、対象を分けてブックリストをつくっており、利用しやすくしてよい取り組みだと思います。

3 生涯学習施設の整備・充実

(1) 生涯学習環境の整備・充実

本埜公民館の保全改修工事が完了し、安全で使いやすい施設に生まれ変わりました。今後も施設の耐久年数を伸ばし、時代に合った施設にするために、継続的・計画的に公民館、地域交流館、図書館の改修を進めていくようお願いします。

また、新しく完成したコスモスパレットの有効活用にも期待しています。

4 家庭と地域の教育力向上と青少年健全育成

(1) 家庭教育学級の充実

時代を超えて重要な事業ですので、昨年に引き続き 34 学級が開催されたことはよかったと思います。今後も、学級生の参加意欲を高めるため、前年度のアンケート結果や学級生の声を生かした計画づくりができるよう支援をお願いします。

今年度は、働いている人も参加しやすい土曜日に家庭教育講演会を開き、子育てについて学ぶ機会を設けたことはよかったと思います。

(2) こども 110 番の家の推進

地域で助け合い、子どもを守り育てていくという機運を高めるため、地域全体への周知や協力依頼を引き続きお願いします。

(3) 青少年健全育成大会の実施

市民が中心となって運営している大会で、今年度は、小学校の合唱や中学校の演奏、薬物依存症の回復支援施設千葉ダルクの琉球太鼓の演奏等が行われ、多くの参加者がありました。今後も市民が中心となって温かみのある大会が運営できるように支援をお願いします。

(4) 地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実

地域のいろいろな活動の情報や課題を共有し、地域全体で一つのことに取組んでいくことは、コミュニティ作りの方法として有効だと思います。会議や行事の際に学校の負担とならないようにお願いします。

(5) 放課後子ども教室の実施

地域で活動を支える人材の確保が難しい中、昨年度より 1 か所増えて、滝野小学校、本埜小学校、原山小学校の 3 か所で開設できたことはよかったと思います。子どもたちの豊かな心を育むために、今後も市全体でいろいろな体験ができる場を設けるようにしてください。

(6) 二十歳を祝う会の実施

昔から行われていた成人を祝う儀礼が形を変えて引き継がれ、現在の式典につながっている意義深い行事です。今年度も 20 歳となる市民の運営で行い、多くの参加者がありました。今後も若者の意見を取り入れながら、祝う会を続けていってほしいと思います。